



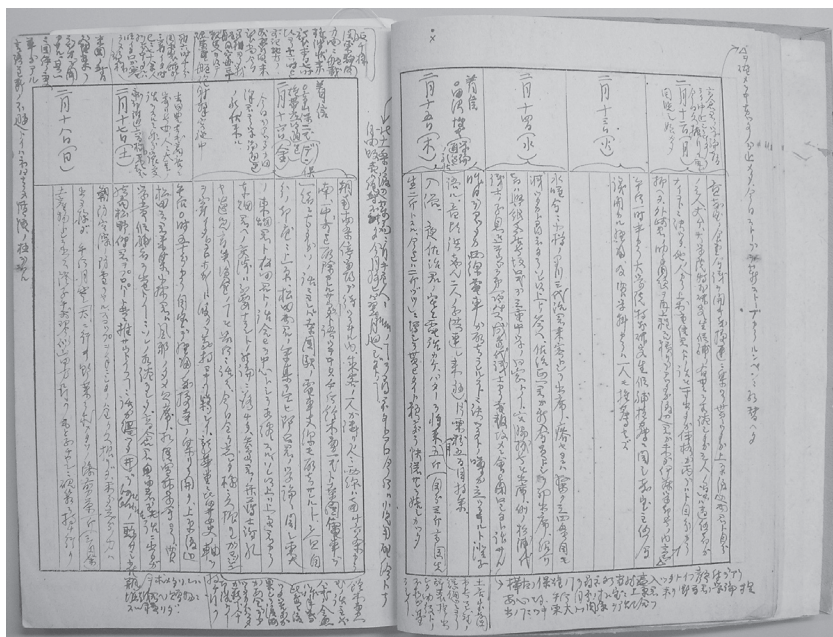
Title	中島九郎1945年日記（上）
Author(s)	越山, 澄子; Koshiyama, Sumiko; 山本, 美穂子 他
Description	（翻刻）越山澄子, （補筆）山本美穂子, （解題）井上高聡 資料翻刻
Citation	北海道大学大学文書館年報, 2, 49-94
Issue Date	2007-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/32513
Type	other
File Information	koshiyama1.pdf



〈資料翻刻〉

中島九郎1945年日記（上）

〔翻刻〕 越山 澄子
〔補筆〕 山本 美穂子
〔解題〕 井上 高聡



〔凡例〕

1. 適宜、句読点を付した。
2. 漢字の旧字・異体字は、基本的に常用の新字に改めた。
3. 合字は、すべて常用の片仮名に改めた。
4. 難読字には、読み仮名を振った（例：^{くらわ}瓦）。
5. 明らかな脱字は、[]に入れて補った（例：出掛ケ [タ] ノデ）。
6. 文意の通じにくい誤字には、正字を [] に入れて誤字の上に記した（例：剪茶^{〔剪〕}）。
7. 解読不能な文字は、字数分を□で表記し、推測可能な場合は [] に入れて□の上に記した（例：棒^{〔棒か〕}□）。
8. 空欄は、字数分を□で表記し、その旨を [] に入れて□の上に記した（例：森川^{〔二字空欄〕}□□）。
9. 関係者のプライバシーに関わる部分は削除し、該当部分に [略] と記した。
10. 脚注を作成した。

一月一日 (月)

昨晚ノ風呂ノタメモアツタラウガ、室内ハ左程デモナイ様ダガ、戸外ノ寒サハ近来稀
有ノ強サ。元旦トイフノデ、自分モ今朝ニ限り、髭剃リ洗面共一時ニ済マセタ。神棚
参拝ノ後、三人一同食膳ニ就ク。黒イ餅 (中屋デ賃餅) ガアッサリシテ居リ栗餅ニ似
テ居リ、九ツモ雑煮ヲ食ベタ。他ノ二人モ相当進ンダラシイ。大福ノキントン (僅カ
砂糖入)、数ノ子 (浜¹⁾カラ利尻カラノ) ト黑豆、大根ト人參ノナマス (ビートデ甘味
付)、田作ナド、型ノ通り。八時半頃、家ヲ出ル。教室デー寸注文□著書ノ記帳ヲナシ、
中央講堂ノ式場ニ出掛ク。橋本²⁾、高岡³⁾、星野⁴⁾、明峰⁵⁾ 諸先生出席。国民服ニ勲章
佩用ノ教官多シ。今年ハ始メテ同窓会ノ新年ノ催シナシ。午后、益子⁶⁾ ト澄子⁷⁾ ト二
人デ札幌神社参拝ニ出掛ク。自分ハ留守番。其ノ間ニ縁側ニ (日ガ照リ暑イ位) 小卓
子ヲ出シテ、小林⁸⁾ 教授ノ学位論文ノ審査要旨ヲ始メテ書キ出シテ見タ。昼ハ焼餅、
夕ハ飯。自分ハ三十日ニ桑園ノ三国屋デ求メタ甘酒ヲ今日殆ド一人デ味フ。少シ酸味
アリテ美味ナラズ。夕方、法帖ヲ見テ楽ム。式場デ堀内⁹⁾ 教授、衣装、濃イ眉、実業
家タイプ。

一月二日 (火)

mm23

午前中ニ益子ハ開田商店カラmm¹⁰⁾三ヶ買ッテ来ル。普通一人ニ二ヶノトコロヲ特別
ニシテ呉レタトノコト。昼少シ前ニ高山チャ子¹¹⁾ 殿、子供四人連レ廻礼ニ来ル。昼食
ニスイトン式ノ団子 (mm:オートミールヲ混ズ。今日ハ珍ラシク中心マデ煮エテ白
イ部分ガ見エヌ。オートミールノ為メカモ知レヌ。) ニ塩餡 (岡本) ヲ添エテ出ス。
自分ハ今日ハ一日少シモ戸外ニ出ヌ。小林氏ノ学位論文ノ審査要旨ノ続キヲ、昨日ニ
続ケテ書ク。然シ、チャチャング来ルナドシテ余リ進行セヌ。高山ノ子供等ガ俄カニ
神棚ヲ眺メニ行クノハ変ダナ、自分ノ家ノ電灯ト比ベルノカシラトモ思ハレタガ、後
デ気が付イタ所デハ、神棚ニ綺麗ナ林檎ガ供ヘラレテアッタノヲ見付ケタ為メラシ
イ。矢張り子供ダ (トモ子、景子^[敬子]、紀子、洋夫)。

一月三日 (水)

午前ヨリ午后ニカケ約七時間ニ亘リ、敵艦載機ヲ主トスル延約五百機ガ台湾 (一
部ハ沖縄) 各地ニ来襲
昼少シ前ニ一次¹²⁾、年賀ニ来ル。昨年六月ダカノ昇給時期ニ、彼レ丈ケガ取り残サレ
タトテ不平ヲ並ベテキタ。如何ナル訳カハ知ラヌガ笠島¹³⁾、日下両課長ノ取計ヒデ札
幌本所ニ転勤ニナラウトスル矢先、困ツタモノト自分ハ思ツタ。ソノ内ニ午后ニ至リ、
収久衛¹⁴⁾ 君モ来ル。堀越¹⁵⁾ 君カラノ「リュック」持参。夕方、二人ニ食事出ス。白飯
ニ「カニ」ノ天プラヤ桜肉ヲ出ス。一次ハ珍ラシクお膳ノモノ全部平ラゲ、味噌汁ノ
お代リヲスル。収久衛君ハ会社ノ彙報 (自分ノ編輯セルモノ) ニ対シ批難ガアルトテ
シオレテキタ。心ノ少サイ男デ残念ト思ツタ。一次ハ家ニ入ルト早速、静子¹⁶⁾ ノ悪口
ヲハジメタ。厚別ニ買出ニ来テモ彼レノ宅ニ立寄ラヌトテ。

一月四日 (木)

夕方近く、勝美¹⁷⁾ 君来宅。白飯ニ味噌汁、新巻、塩引、「カニ」ト玉葱ノ「バタ」イ
タメ、ビール、鰹ノシオカラナド出ス。大食デ且ツ食事ガユックリニハ少ナカラズ驚
ク。東京ノ空襲其他ノ話ヲ面白ク聞ク。風呂立タ。遅クナツタノデススメテ勝美君ヲ

宿スル。勝美君、東京工場ヨリ葡萄糖ヲ持ち来ル。一寸渋味アリ。

一月五日（金）

昼近ク、澄子、成田収久衛様宅ニ年賀ニ出掛ク。収久衛様カラ彙報（四号）ヲ渡サレ持ち帰ル。ビルマ豆ヲ一升位全家ヨリ呉レル。昼近ク、苗穂ノ岩瀬喜作¹⁸氏方訪問。mm2ヶ。朝、戸外ノ雪カキヲスル。隣宅ノ佐藤様ガ、南ノ行啓通りヲ拙宅敷地ノ領分マデモ雪ヲハネテ来ラレタノニハ、ソノ親切ニ驚ク。

一月六日（土）

発信 ○堀越義雄氏（（テ）礼状）

朝、予科事務所ヲ訪ネ岩瀬教授宛手紙ヲ置ク。受験願書控ヲ見セテ貰ヒ、保雄¹⁹ノ登録ヲ確メタ。三十六番トアリ、余程早く出シタト見エル。一旦帰宅ノ後再ビ出校。二時カラノ新設農林専門部制定委員会ニ出席。総長委員長、伊藤²⁰農学部長副委員長トナル。川口²¹、佐藤²²両実科主任、手島²³、中島²⁴農場演習林長ノ外、各学科主任ガ出席。ソノ中、前掲四人ガ実行委員トナル。設備費10万円、俸給費4万円トカ。教授8名、助教授4名。昼頃、はまちゃん、子供ヲ連レ年賀ニ来ル。又、荒又²⁵君ノ奥様モ来宅。玉葱、長芋持参。mm2ツ土産ニ差上ゲタ由。昼近ク、自宅カラ大学ノ山下研究室²⁶ニ戻ラレタ田所²⁷君ニ電話シ、森岡²⁸君ノ病死ヲ知セタ。北八条坪田店カラカレー粉十缶求メタ。コノ品ハ他店ニハ自分ノ眼ニハ絶対ニ見当ラズ、南方圏トノ交通ガナクナッタカラニハ将来共輸入ノ見込ガナカラウカト思ヒ買求メタ。他日、土産物トシテ珍重サレル時期モ来ルカモ知レヌ。夕方、学校カラノ帰途、十字街ノ停留所ノ所デ文栄堂ノ小使ト話シタ。三十四、五年モ同店勤務ト。紙ヲ出セバ原稿用紙ニスツテ呉レルダラウトノコトヲ聞イタ。夕食ノ味噌汁ノ中ニ乾燥南瓜ヲ入レタ所、皮トノ間ガ青臭イ。数日前ノ冷凍南瓜ト似タリヨッタリノ味合セ。

一月七日（日）

今日ハ出勤ノ日曜日ダガ自分ハ家ニ引籠ル。午前中、教室ノ南²⁹君ヨリ大爺³⁰助手江別へ出張（旅費不給）ニ付、判ヲ貰ヒタイトノコト。押ス様ニ返事ス。午前中、彰華堂ニケント紙二枚持ち行き、主人ニソレヲ色紙（十二枚）ニ製作方頼ム。一枚一円五十銭トノコト。ソコデ白色大理石ノ風鎮一ヶ求ム（十円。他店、例バ³¹ナラ十三円五十銭トノコト）。外ニ班色^[坂]ノモノニケモ一両日考ヘサセテ呉レト頼ミ置ク。ソレヨリ北十四条西四ノ前田金物店ニ「コンロ」受取ニ行ク。妻君出デ来リテ、電話ヤラ葉書ヤラデ強制サレテ閉口シタト、ツブヤイタニハ当方モ閉口。強制デハナイガ懇願ノ度ガ強カッタ訳。小林君ノ学論審査報告ノ第一原稿ハ略ボ書き終ッタ。ソレヨリ小林君自身執筆ノ要旨ヲ一寸読ム。頁数多シ。夕方、益子モ澄子モ台所ノコンロノ炭火デ中毒。兩人共早く就床。

一月八日（月）

発信 ○色部雪江氏（（テ））

○加藤木保次³²氏（（テ））

○ハツ子³³（（テ））

高倉³⁴君ノ学論ニ眼ヲ通シ始ム

今日ハ三回モ雪搔キスル。昼少シ過ギニ静子、子供ヲ負ヒ年賀ニ来ル。自分ハソレト行き違ヒニ登校（歩イテ）。途中、札幌病院前ノ加藤時計店ニ両蓋時計用ノガラスヲ

尋ネル。実ハ昨日、彰華堂カラ聞イタノダ。十五、六年前カラコノ種ノガラスハ製造中止デ、札幌市中ニハ手持品ハナイガ他ノ方面ニ探シテ見ヤウカラ、来月カ再来月尋ネニ来ラレヨトノコト。多少嬉シカッタ。学校デ森高小使ニ借家ノコトヤ売家ノコトヲ尋ネル。実ハ収久衛君ノ姉様親子ガ借家求メテキルノデ。間モナク退座。裏口カラ四丁目行電車ニ乗ッタトコロ、間モナク断線ノ事故ガ起リ下車シテ歩ム。途中、彰華堂ニ立寄り斑ノ大理石風鎮二組（一組十円）求ム。高倉君ノ学論見始メル。益子、佐藤奥様ト警火番ニ二度出ル。隣リノ妻女、又々離縁噺ヲ益子ニ持チ出シタトノコト。森高君ノ話ニヨルト一万二、三千円五十何坪ノ家ハ売物ニアルト。偕楽園³⁵⁾附近、約100坪@1タ歩=月14円ノ借地料ヲ外ニ要スルト。帰宅シタラ、静子未ダ居タノデ其ノ話ヲスル。少々高クトモ借家希望ラシイ。

一月九日 (火)

散髪

米軍リングエン湾ニ初上陸

久振りニ教室食堂デ中食。弁当持参シタノハ荒又君一人。後デー寸小林君ガ顔ヲ出ス。午后、北一条上原（中村）床屋ニ行ク。客ガ少クテ早く済ム。

一月十日 (水)

発信 ○本庄彦蔵氏 ((デ)『レイソクージツウカス』ナカシマ))

○加藤木保次氏 ((デ)「モリージツウカスナカシマ」)

○高山保二³⁶⁾氏 ((デ)「ヤスヲザンネン九ロウ」)

日本民俗学北海道大会ガ午前十時カラ始マルトイフコトデアッタガ、十一時頃、資料室ニ行ッタラ講師ノ一人橋浦泰雄³⁷⁾氏ガ見エテ居ラレ名刺ヲ交換。農実³⁸⁾ヲ昔卒業シタ季雄(?)氏ノ会見トノコト。其ノ後、肥後和男³⁹⁾氏(東京文理大教授)モ参加、座談会ガ資料室デ開カレタラシイガ、自分ハ水曜会⁴⁰⁾ノタメ遂ニ会ニ顔ヲ出サナカッタ。大学以外ノ会員十数名来会。携帯ノ中食ヲ各自トリナガラ三時近く迄、会ヲヤッタラシイ。小林、高倉両君ガ主トナリ、渡辺⁴¹⁾、荒又君ホカ出席ノ由。朝、渡辺君ト十一条停留所カラ一緒ニナリ十五丁目デ電車が中々来ヌノデ、二人デ歩イテ昇校。一時半頃、予科ノ岩瀬喜作教授主任ニ電話シタラ、自分依頼ノ四人中、農類ノ第一次銓衡ニ合格シタノハ函館ノ本庄登志彦、兵庫県芦屋中学ノ森雅彦君二人。保雄ノ失敗ニ落胆。帰りニ打田店カラ煙突掃除ノブラッシュト巻竹ヲ電車ニ持込ム。閉口。保雄ハ豊原中学デ十三番トカ「ハツ子」カラ聞イテキタノデ、全校ノ内申書ガ物ヲイヘバ余程有理カト思ッテキタトコロ、駄目デ自分モガツカリシタ。高山方ハ電報ヲ嫌フ家ト聞イテキルノニ其ノ上凶報トアッテハ、ドンナニカ落胆シタコトデアラウ。

一月十一日 (木)

発信 ○色部雪江氏 ((ハ)倉田新氏第一次不合格ノコト)

着信 ○本庄彦蔵氏 ((デ)『ユンビチウタノムホンゼウ』)

昼過ギマデ家居シテ小林君ノ学論ノ審査趣旨ヲ進メル積リデアッタトコロ、琴似ノ山田姉上⁴²⁾ガ午前中ニ来宅ストノ電話ガアッタノデ急ニ登校。留守中ニ姉上来リ、味の素、益子ノ白タビ(二足)、砂糖(二百目カソレ以上)ナド持参トハ嬉シ。三時半カラ教授会。出席者少シ。朝、行啓道路ノ開田店ニmm三十ヶ申込ンダガ三ヶヨリ駄目。併シ別ニ益子モ三ヶ求メテ帰ル。函館ノ本庄彦蔵氏カラ上ノ如キ来电アリ。我ガ子ト

ハイヘ礼儀ニ厚イ人ト思ツタ。只「ユンビ」トハ「準備」ノコトダガ、「ジュンビ」デハ字数超過ノタメ故意ニ「ユンビ」ト打ツタトアラバ賢イ人ダ。併シ「ユンビ」デ充分準備ト推量出来ル。本日ノ教授会デ上原⁴³君ガ「メガネ」ヲニツ出シテキルノヲ見タ。矢張り彼レモ老眼トナツタノカ。

一月十二日（金）

mm37

一時半カラ銚衡委員会（新設解剖学講座ノ教授助教授各一名）開催。自分ガ委員長。ルソン島敵軍上陸後ノ戦況、思シクナイ様ダ。今日、委員会ノ始マル前ノ皆ノ話ヲ聞イテモ頗ル悲観的ニ聞エタ。広瀬可恒⁴⁴助手ガ委員会^[助教授]デ助手ニ推薦。小山内君カラ同助手ノ井口⁴⁵教授令嬢トノ縁談ガ消エタト聞キ、直チニ澄子ノコトガ念頭ニ浮ブ。帰宅后、益子ニモソノコトヲ話ス。

一月十三日（土）

オートミール

mm42

着信 ○猪野田一⁴⁶氏（（ハ）年始状）コレガ唯一ノ年始状

例ノ爺サン来リ屋根ノ雪卸シヤル

朝、例ノ開田店ニ寄りmmヲ呉レトイヒ出シタラ、年上ノ女ガ居タガ自分ヲ見テ、お持ちニなりませんでしたかト尋ネラレー寸タヂへ。実ハ特別ニ願ッテキル者ト答ヘタラ、ソレデハ昨日幾ツ差上ゲタデセウトノコトニ五ツトイウタラ、ソノ五ツヲ呉レタ。昼過ぎ、予科ノ和田⁴⁷教授ヨリ電話アリ。時間ヲ約束シタラ少シ遅レテ四時近クニ来宅。自分ノ新宅ニ全君ハ初メテ見エタノダ。郷里ノ石川県産ノ奈良漬トソレニ明治紅茶ヲ持参。コチラデハおはぎヲ出シタラ思ヒガケナキ馳走ニ一寸驚カレタ形。水産学科ニ於ケル水産情況ノ講師依嘱ノ経緯ヤソノ将来性ナドヲ尋ネラレ、自分ハ程ヨク答ヘテ置イタ。岡本製館所デ特別取扱ヲ老母ニ頼ンダガ駄目。

一月十四日（日）

豊受大神宮ニ爆弾降下

午后、マリアナ諸島ヨリB29六十機、主として名古屋附近ニ来襲シタガ、敵ハ数発ノ爆弾ヲ豊受大神宮域ニ投下、斎館二棟、神楽殿五棟崩壊シタ。

感冒ノタメ今夜ヨリ就床。

一月十五日（月）

一月十六日（火）

一月十七日（水）

前週水曜会ノ当日、大急ギデ食事シタ為舌ノ裏ヲ痛メ、今日モ食物ニ触レルト痛ムコト甚シク不愉快千万ダ。午后カラノ農政講義（二時間ツゞキ）ヲ一寸ヤッタガ風邪ヨクナク間モナク中止。帰宅。

一月十八日（木）

発信 ○学振（（デン）『一ニイインカイケッセキス』ナカシマ）朝、澄子ニ打電セシム

今日ノ農政演習ハ富樫⁴⁸君（二年）ガヤルコトニナツテキタガヤメルコトニ、昨日、学生ニ知ラセテ置イタ。

一月十九日 (金)

今日始メテ先般、新田啓二郎⁴⁹⁾氏ヨリ依頼ノ札幌商工経済史ノ草稿ノ写シヲ始メテ解イテ見タガ文章ガ拙クテ不快。

四時間目ノ農史ノ時間ニハ舌ガシャブル^[_べ]度ニ痛ムノデ閉口。二時半カラ市ノ常務委員会出席。主題ハ同会内ニ専門委員会ヲ設ケルヤ否ヤデアルガ、三沢⁵⁰⁾市長ガ頭カラ反対説ヲ出シ[タ]処、皆賛成。女子挺身隊員ノ留守中ノ配給問題ニツキ、配給店ノ奉仕ヤ日婦会員ノ斡旋ノ受理トノ結論ニ落ツ。全会終ッテホテルデ懇談会。支那料理。席上、石上委員ノ東□航空会社ノ話、有益。

一月二十日 (土)

着信 ○成田勇⁵¹⁾氏 ((デン) 至急親展

二時間目ト四時間目ノ授業ヲ休ムダ。

『親友松浦⁵²⁾代議士」息道雄」帯広高等獣医学学校入学ニ付」宮脇富⁵³⁾氏ニ連絡是非入学出来ル様願フ」成島勇』松浦代議士ハ周太郎氏ト直グ分判断サレタガ、令息道雄ハ明後二十二日第十四版人事興信録デ始メテ分ツタ。

一月二十一日 (日)

昼前、益子ト澄子ト連レ立ッテ街ニ買物ニ出掛ケタ。自分ハ床ノ中デ留守番ヲシタ。函館食品工業本庄課長ノ奥様来宅。鮭ノカンヅメ六ヶ持参。

一月二十二日 (月)

午後、予科デ森雅彦君ノ受験番号ヲ確メ後、教室カラ予科ノ岩瀬教授宛、本庄登志彦、森雅彦両君ノコトニ関シ書キ送ル (森高小使)。午後、放送局放送部ノ平沢清一氏来室。来ル二十五日ノ座談会ノ話ヲサレル。夕方帰宅シタラ、少シ前ニ例ノ植田氏ヨリ電話アリシ由。仍テ電話ヲコチラカラカケテ視タ。午前11時頃、同氏宅訪問ノ約束ヲシタ。

一月二十三日 (火)

発信 ○宮脇富氏 ((テ) 成島代議士ヨリ依頼ノ旨)

二十四日投函 ○加藤木保次氏 ((テ))

○本庄彦蔵氏 ((テ))

○成島勇氏 ((テ))

午前十一時頃、植田英武氏方訪問。案ノ如ク澄子ノ縁談纏メズトテ写真返サル。小竹信夫⁵⁴⁾氏ハ何トシテモ札幌帰還ノ意思ハナク、一生軍人デ通ス積リデ、ソノタメアノ方面ニ親戚ニ求メタイトノコト。コチラカラ申出シタコトトテ一寸不名誉ニ感ジタ。今朝、西二十丁目カラ桑園線ニ代ッテ間モナク電車ガ揺レタ途端ニ、戦闘帽ノアゴ紐ノ一端ガ切レタノデ縁起ガ悪イナド思ッテキタラ、矢張りソウデアッタ。

一月二十四日 (水)

水曜会デ新人会員東道新社長ノ紹介ヲ小竹⁵⁵⁾氏ガナス。外ニ海上保険ノ新会員某氏ニ対スル紹介モアッタ。ソレカラ阿久津⁵⁶⁾氏ノ工業立地ニ関スル話ガアル。

今日デアッタカト後カラ思フガ、高島⁵⁷⁾見習士官、食堂ニ来ル。飛行学校卒業シ原隊ノ帯広飛行隊ニ帰ル由。

一月二十五日（木）

mm50

牧野⁵⁸見習士官、食堂ニ来リ職員集マル。之カラ奉天ニ入隊スルトカ。将校姿少シ垢抜シテ見エル。

二時カラ本部ニ於テ農地委員会開催ノ由。開会后、演習中ノ自宅ニ知ラセガアツタガ、三時過ぎ、本部ニ出掛ケタラ既ニ閉会サレタ間際デ、階段ノトコロデ今⁵⁹総長ニ出逢ヒ、総長カラ結論ヲ聞イタ。四時カラホテルデ札幌放送局主催ノ「農家ノ時間」ニ関スル座談会開催、出席。西本局長、放送部長、全副部長、其ノ他部員ノ若林、小林、中村（道庁）、沢田、石井（道農業会）諸氏出席。夕方七時頃、帰宅スルト南椽側ガ明カヘト燭ガ付イテ居ルノデ、変ト思ヒツ、玄関ニ入ルト、澄子カラ本庄様ノ奥様ラシイトノコト。自分モ直チニ座敷ニ入ル。本日、予科ノ身体検査ノ際、全令息ガ二度モレントゲンヲ撮ラレタトテスツカリ悲観シテ居ルノデ、自分ニ何ントカ頼ムトノコト。

一月二十六日（金）

午前中、予科ニ立寄り昨夜ノ件ヲ調べたら、九十一番ノ本庄君ト九十番ト重ネテレントゲンヲ取ツタノデ撮リ直シタ丈ケトノコトガ判リ安心。午后二時カラ市常務委員会ト日婦理事（五人）トノ合同会議ヲ開キ、女子挺身隊ノコトヲ相談。市教育課長錦戸、石上各委員ガ主トシテ発言。五婦人共発言。半沢⁶⁰様奥様モ出席。ハッキリシタ言葉ヲ出サレル。一億献教運動ニ関シ道支部（翼賛会）カラ出席シタ人ガ説明。自分カラ道支部ノ玄米食奨励論ニツキ質問。青葉⁶¹先生、昨朝逝去ノ由、半沢先生ノ奥様ヨリ聞キビックリスル。夕方近く、勝美君来宅シ泊ル。今日デアツタト后カラ思フガ、すかわ屋カラトテ一年波磨君、コーンフレークス五袋持参。

一月二十七日（土）

mm51

入浴

早朝、岡本店ニ行ク。既ニ八十人位行列ヲ作ッテ居ル。一時間位待ツタ挙句、自分ヨリ十人位前デ品切レトナル。近来ニナイ厳寒。マツゲモベタヘスル位。打田店カラ長柄ノヒシヤクヲ求メ帰ル。夕方、塩見洋服店主来宅。霜降色ノ国民服持参。風鎮、掛軸、絵帖ナド見セル。書画ノ知識ノ広イノニハ驚ク。corn flakes 三袋持タセテヤル。自分ノ長女ヲ江田島教官海軍大尉ニ昨夏片付け5000円カカッタカ。余リニ得意ガツテシャベルノデ、自分ハ澄子ノコトモ考ヘ聊カ不快デアツタ。

一月二十八日（日）

一月二十九日（月）

mm52

午後、月寒ニ行ク。刃デ塩昆布一箱求メル。

一月三十日（火）

発信 ○本庄彦蔵氏（（デン）『ハイッタ』ナカシマ）

○加藤木保次氏（（ハ）森雅彦君第二次失敗ノコト）

本庄彦蔵氏ヨリ返電来レル旨、電信局ヨリ通知アリ

岡本店ニ早朝出掛ケル。七十銭ノ餡ノ外ニ好都合ニモ明日分ノ札モ貰ツタ。行列ニ加ッ

テキタカラダ。午後二時カラ円山瑞龍寺デ故青葉先生ノ告別式執行。弔詞カ多過ギル位。従学者総代ノ弔詞ノナカッタノハ残念。葬儀委員長ハ今総長、小熊⁶²⁾北方研究所⁶³⁾長、服部⁶⁴⁾予科長ガ副委員長。午前十時迄。岩瀬教授カラ自分ノ予ネテ依頼中ノ予科受験者ノ成否ヲ電報デ知ラセテ来ル。本庄、塩見、松江ノ三名ハ合格。森(加藤木君ヨリ依頼)ハ失敗。

一月三十一日(水)

mm53

農林専門部制定委員会(中野、岡村両係長モ出席)

朝、岡本店デ特ニ一円丈餡ヲ求メル。例ノ老婆ガ特別ニシテ呉レタ様ダ。帝織⁶⁵⁾附近ノ靴修繕屋ニオーバーシューズ二足、レーンシューズ一足頼ム。北八条藤本店デmmヲ尋ネタ所、主人ガ妻君ト耳打シタ結果、アナタハ昨日モ来ラレタデセウト一旦断レタガ、栄養食餌トシテノ事情ヲ述ベタラツ特別ニ分ケテ呉レタ。又、例ノ青海苔ノセト器入りヲ尋ネタラ、始メ売切ノママノ訳ナ様子ヲシテ居タガ、間モナク店ノ隅カラ木箱ヲ出シテ来テ開イテ呉レタ。十ヶ求メタ。午後二時カラ農林専門部制定委員会開催。島⁶⁶⁾教授ガ全部長ニ内定ノ旨、伊藤学部長ヨリ紹介アリ。島君、亦挨拶ヲスル。教室ノコトガ議論ノ中心トナル。自分ハ北方文化研究室ヲ旧動植物学教室ノ既設建物ニ移シテハト切り出シ一般ノ同意ヲ得タノハ愉快。水曜会デハ富樫⁶⁷⁾君ノ比島視察談(昭七年)アリ。午前中、今井⁶⁸⁾デ鶴ノ置物(bone china)ヲ求メ帰宅。

二月一日(木)

今日ハ午後ノ農政演習ヲヤル学生ガナイノデ休ム。益子ガ琴似山田⁶⁹⁾方へ出掛ルトイフノデ自分ハ終日留守居ヲスル。益子ハ往復ト共徒歩デ帰リニハ豆其他ヲ背負ツテ来ル。案内徒歩⁹⁾ハ楽ダツトイッテキタ。今日デアッタカト思フガ、中実氏ノ死亡広告ガ新聞ニ見エタ。彼ノ弓ノ様ニ曲ツタ背中ガ眼ノ前ニチラツク様ダ。

二月二日(金)

発信 ○叢松堂((テ)領収書)

全市雪除ケ作戦ヲヤル

午前中ノ授業ヲ済セテ月寒ニ行ク。伊藤肉店ニ寄ッタガ桜肉ハ近頃全ク来ヌ。近ク統制品ニナリサウダトノコト。今日ハ配給肉ノ日デ、コノ種ノ肉ハ不足コソスレ剩ルコトハナイト。刃デ塩昆布一箱其他ノ買物ヲスル。朝、登校ノ途中、彰華堂ニ寄ッタラ、富士ニ宮ノ森ノ軸ヤ、竹ニ雀ノ軸ヲ眺メ(前者ハ五十円、後者ハ百円(但シ八十円ニハナルカモ知レヌト)、特ニ前者ハ廉価ダシ又アッサリシテ上品ダシ、欲シイト思ッタ。帰宅後、能ク考ヘルト、濃厚ナ竹ニ雀ヲ出来レバ欲シイナト思ヒ出シタ。今夜、穴倉⁷⁰⁾君来訪。除虫菊ニ関スル用向モ済ンダノデ、茲数日中ニ帰満⁷¹⁾スルトノコト。ビール、コーンフレーク、白魚ノ加工品、カンヅメ鮭、鰹ノ塩辛ヲ出ス。ビールノ味無上。同君ヨリ純綿布ト銘茶ヲ手土産トシテ貰フ。

二月三日(土)

教授会

節分

朝、豊平駅迄電車デ行き、ビート種子ヲ求ム。午後一時半カラ教授会。学位論文審査トイフ議題ガアッタノデ、野間⁷²⁾君ノモ入ッテキルカト小林君ノ報告未了ト併セ考へ、

ハラへシタガ、蓋ヲ明ケルトソウデナクホツシタ。帰りハ歩イテ彰華堂ニ立寄、月三⁷³⁾、香瑤⁷⁴⁾ノ二幅ヲ借り帰ル。

二月四日（日）

十八時大本營発表ニヨレバ、本日午后、マリアナ基地ヨリ敵機百機来襲。主力ハ神戸ニ、一部ハ三重県下ニ投弾。若干ノ被害アリ。

立春

朝、尾形月三ノ「富士ト松林」、松井香瑤ノ「竹ニ雀」ノ二幅ヲ床ノ間ニ並ベカケテ、益子ト共ニ眺メ入ル。結局、二幅共欲シクナツタ。但シ富士ノ絵ハ丈ケガ少シ短ク、ソノ上、縁ガ紙ノタメ両側ガフワへトソレ出シタ。安ッポク見エルノガ惜シイ。ソノ為、裏打ヲスルカ或ハ縁ヲ全部取替ヘテ布地ニスルカニシタ方ガ良カラウト思ツタ。費用ガカカルノハ閉口ダガ。本日ハ一步モ戸外ニ出ナカッタ。全ク珍ラシイコトダ。彰華堂カラ昨日借リタ「現代美術家総覧」ヲ今夜全部読上ゲ、ソノ中カラ知人ノ履歴ヲ「ノート」ニ写シ取ツタ。今日ハ非常ナ吹雪デ、ストーヴニアタリナガラ書見ヲスルノハ愉快ナモノダ。

二月五日（月）

発信 ○高山保二氏 ((テ))
○池田善長⁷⁵⁾氏 ((テ))

散髪

朝、塩見君ノ宅ニ月山作「祠ト富士」ヲ持参シテ鑑定シテ貰フ。五十円ハ高イトイフ。月山ノ名ハ全君知ツテキタ様ダ。抹茶ト小形落雁ノ饗応ヲ受ケル。お茶二杯モ出ス。最上級ノ抹茶トノコト。ソノ前ニ風鎮一組（十円。先日、彰華堂ニテ求メシモノ）ヲ贈物トシタ。全君ハ喜ンデ、後デ奥様ニモ話シテキタ。又、先日、全君来訪ノ際ニ上ゲタコーンフレークノお礼ヲモイッテキタ。応接室デ画帖（不折、近藤浩一路、小波、鳴雪、碧梧桐、芋銭、句仏⁷⁶⁾、其他執筆）、素懐ノ書ハ丁度画ノ如キ所ガアリ頗ル珍ラシイト思ツタ。趙子昂⁷⁷⁾、米兪ナドノ書ヤ日本画集等ヲ見ル。塩見君自身ノ「臣道実践」ノ書マド見エラレル。全君、自分ノ頭ノ寸法ヲ計リ、霜降国民服ニ似合ノ帽子ヲ作ッテヤラウト、帰りニ玄関先デイフ。有難イコトダ。何セ全君ノ長男ガ今度予科理類ニ入学シタノデ嬉シクテ耐ラヌ様デアル。一旦帰宅。昼食后、拓銀デ百五十円引出シ登校。帰宅ノ途中、彰華堂デ、月山（尾形）、香瑤（松井）ノ二幅ト前者ノ表装取替料ト色紙作製料ヲ合セ、170円支払ツタ。桶屋（東屯田通り）ニ立寄りニ斗樽ヲ頼ム。

二月六日（火）

本学創立記念日

午前中、札幌印刷ヨリ別刷リ「戦争と食糧」壺千部ヲ（實際ハ六部余分）自宅ニ届ケル

金銀ノ色紙合計十枚（實際ハ十一枚アリ）、大〇⁷⁸⁾店ヨリ求メ、コレデ昨日ノ色紙作製十二枚ト加ヘ相当ノ数トナリ安心

午前八時半、本学創立記念式挙行。今総長ノ式辞ハ余リ振ハヌ様ダ。式辞中ニ三宅⁷⁹⁾教授ガ停年退職ニナツタコトヲ惜ム意味ノ文句ガアツタ。委員長ハ児玉⁸⁰⁾医学部長。ソレガ済ンデカラ永年勤続職員ノ表彰式ニ移ル。農芸化学ノ武井君（四十三年トノコ

ト) 外総数約二十名。南君ハ満二十九年トノコト。教室ニ全君表彰式中、今総長カラノ為書(履直恒如天)、記念品代(三十円、コレハ勤続年数ニヨリ異ルトノコト)ナドヲ見セテ呉レル。式場デ橋本先生ニ穴倉君ガ先生宅ニ伺ツタカヲ尋ネタ。又、井口⁸¹⁾工学部長ノ肩ヲ叩キ、先日ノ故青葉先生ノ告別式ノ際、全氏(静岡県人會代表)朗読ノ天龍川云々ノアタリハ名文デアッタトイッタラ、ニッコリシタ。又、井口賢三君ハ先日上京ノ際、青森カラ着京迄二十七時間小便ヲ忍ンダトコロ殆ンド血ノ様ナ尿ガ出タトノコト。其前ニハ一滴ノ水モ飲マナカッタ。容易ナラヌ交通難ニ陥ッタモノダ。澄子ノ昨年就職満一ヶ年(一二日違フ)ニ当タルノト、大学記念日ニ相当スルノデ、夕食ニハぼたもちト豆腐ノ吸物(おはぎ七ヶ食べ超満腹)。午前中、⁸²⁾ニ小学児童書初書道展覧会ヲ観ル。参考出陳トシテ梧舟氏ノ色紙ガアル。相当ノ出来ト思ツタ。帰宅シテ尋ネタラソレハ金丸氏ノコトダト。

二月七日(水)

朝、豊平駅ノ電車終点附近ノ荒物屋デ種子物九種(二円十二銭)ヲ求メ、ソレカラ例ノ帝織附近ノ靴修繕屋ニゴム靴三足ヲ持ち行ク。水曜会デハ札幌財務局長(加藤八郎氏?)ノ税ノ話ガアル。

二月八日(木)

朝、小林教授ノ学論審査要旨ノ清書ヲ書キ始メル。例ノ帝織附近ノ靴修繕屋カラゴム靴三足持帰ル。帰宅シテ見ルト學術振興会カラ手当金貳百五十五円(総額三百円ノ所、四十五円ハ所得税)送リ来ッテキタ。

二月九日(金)

発信 ○学振((テ)受領書)

昼食ニ久振りニ食堂ニ入ッタガ誰モ見エヌ

駒井⁸²⁾君カラ「大陸小志」五部送リ来ル

安田支店ニ昨日ノ小切手ニヨリ二百五十五円受取り、直チニ拓銀ニ預金。昼少シ前、非常ナ吹雪。午後一時半カラ予科及高校ヨリ学部志望者ノ決定ニ関シ教室主任会ヲ開ク。夕方、保彦来遊。来ル十二日ヨリ内原訓練所⁸³⁾ニ入所スルト、快活ニ話ス。mmダンゴト甘酒ヲ出ス。今晚迄ニ小林教授ノ学論ノ審査要項ノ清書ヲ書キ了ヘタ。人格思想調査モ全断。

二月十日(土)

午前中ニ石川潤一⁸⁴⁾君来宅。ビルマノ話ヲスル。富士紡ノ棉作地帯ノ数ヶ所ハ已ニ戦場ニナッタトノコト。全君ハ目下、農実講師トシテ遺伝学講義中ノ由。自分ガ何時頃迄講義サレルヤト問フタ所、ニヤリト笑ツタ。恐ラク新専門部ノ専任教授トナルノデハナイカ。一時半ヨリ法経会⁸⁵⁾臨時講演会ヲ開キ、道食糧営団大川課長ノ話アリ。山形食糧営団ノ視察談カラ始ツタ。講演会後、渡辺君ト同道歩ミ帰ル。

二月十一日(日)

昨夕、渡辺君カラ借りタ儀礼章(全君ノ父上ノ)ヲツケテ新国民服デ紀元節ニ出掛ケタ。二等勲章ヲサゲテ行ツタガ、勲章ヲツケテキタノハ軍人以外ハ見当ラナカッタ。四方拝ノ時ハ勲章佩用教官ノ数ガ多ツタガ。午後、渡辺君方ニ儀礼章返シニ行ク。丁度、父上ガ出テ来ラレタ。ソレハ「スフ⁸⁶⁾」デナド、滑稽味ヲ發揮サレル。今日ハ渡辺君宅ヤラソノ近クノ河口商次⁸⁷⁾教授宅ヲ訪ネル積リデアッタガ、自宅ノ玄関先デ靴

ヲハカウトスル時ニ突然、^[續]鞍ガ切レタノデ、益子ガ河口方訪問ヲ止メロトイフノデ自分モ諦メタ。今日、式場デ上原君ガ、例ノ野間君ノ学論ハ東京大学ノ連中ニ当ッテ見テカラノ提出ニシテハトノ意見ガアルガ如何、トノコトヲ自分ニ尋ネル。松田⁸⁸⁾君カラ東畑⁸⁹⁾君ニハ内々当ッたら全意サレタトノコト。

二月十二日（月）

高倉君ノ学論、暫ラク中止シテキタノデ今日久振リニ再ビ閲覽シ始メタ
昼、教室ノ食堂会議ヲ開キ教授連ニ集ッテ貰ッたガ上原、渡辺両君ト自分ノ三人丈ケ。大学院特別研究生候補ノ有無ヲ相談シタガ、三人ノ間ニハ適任者ガナイコトニ決ッた。他ノ人カラ上村重信君ハトノ話モ一寸出タガ、体格ガ丙デハト自分カラ抑ヘタ。外崎君ノ助手問題ヲ再上程スル積リデアッタガ、渡辺君ガ未ダ伊藤学部長ノ内意ヲ確メテキナカッタノデ止メタ。今日ハ、ストーブヲ薪ストーブカラルンペン⁹⁰⁾ニ取替ヘル。

二月十三日（火）

午後一時半カラ大学院特別研究生候補推薦ニ関シ教室主任会議開カル。経済及農学科カラハ一人モ推薦セズ。

二月十四日（水）

水曜会ハ小樽ノ早川三代治⁹¹⁾君、来客トシテ出席。瘦セタニハ驚ク。三、四貫目モ減ッタカト尋ネタラ、ソレ以上トノ答ヘ。佐治正一⁹²⁾君ガ新会員トシテ初出席。紹介者ハ興銀支店長坂口氏デ三重中学ノ同窓トノコト。宮脇議長モ出席。例ノ松浦代議士ノ子息モ辛ウジテ第一次パス。成島代議士カラ電報責メニ会ヒ閉口シタト話サル。樺太ノ保雄ノコトヲ尋ネタラ、当然這入ッタイフ顔付デアリ安心シタ。午后、自分ノ居室ニ上原君来リ、野間君ノ学論提出ノコトニツキ東大トノ関係ヲ話シ合フ。

二月十五日（木）

着信 ○田沢博⁹³⁾氏（学論通過ノ礼状）

昨日デアッタカ、西線電車ガ取去ラレルコトニ決ッたトノ噂ガ立ッテキルト、澄子語ル。昼頃、浜ちゃん、二人ノ子供連レ来遊。片栗粉五百目持参。入浴。夜、佐治君ノ宅ニ電話カケ、バターヲ将来月五斤（自分三斤、高岡先生二斤トスル。今迄ハ二斤ヅツ）ニ増シテ貰ヒタイト頼ンダラ、快諾サレテ嬉シカッタ。北十一条ノ渡辺薬局ニ行キ、老人ニmmノコトヲ尋ネタトコロ、今后ハ小児用配給トナリ自由販売ハ絶対不能ダ、今月残レバ翌月廻シダトノコト。土居⁹⁴⁾室蘭市長、道庁ノ慫慂ニヨリ辞表提出。助役トノ不和ガ基ラシイ。

二月十六日（金）

着信 ○高山保二氏（(デン) 保雄帯広一次通過）

今日デアッタカ田沢君ヨリ学論通過ノ礼状来ル

延千機、関東静岡方面ニ艦載機波状来襲。本日七時頃ヨリ十六時迄前記地方ノ数飛行場ニ来襲。尚、今日早朝ヨリ戦艦及空母三十数隻ヲ以テ硫黄島ニ艦砲射撃実施中。

朝、南十四条停留場デ待ッテキル内、乗客ノ一人ガ隣リノ人ニ西線ハ南十六条カラ南、一中前迄取除カレルサウダト語ッテキタ。午后、鈴木勇一氏ト桑園電車デー緒ニナッタガソノ話ニヨレバ、桑園駅ノ電車支線モ取去サレルト。昼、自分ノ部屋ニ上原、松

田両君ノ参集ヲ乞ヒ、野間君ノ学論ニ関シ、東大ノ東畑君ト松田君トノ話合ヒヲ中心トシテ相談スル。ソレ以上ハ上原君カラ東畑君ヘノ交渉ハ不要ナラントノ結論ニ落ちタ。矢島⁹⁵⁾君ノ弁護士謝礼ヤ遺児育英資金ノコトヲ最后ニ話ス。今日、全ク忘レタ様ニ久振りニ、ガマッシュ⁹⁶⁾ヲ穿イタトコロ、ホカへニ暖クテ気持ヨキコト夥シイ。彰華堂ニ比田井⁹⁷⁾女史ノ軸ヲ持ち行ク。鈴木勇一氏ノ話ニヨレバ全氏ノ令息ハ昨年暮、比島ニ渡ッタ筈ダが果シテ渡海ガ安全デアッタカ分ラヌガ落下傘部隊トノコト。二月十七日 (土)

帝都附近六百機来襲

朝六時十分岡本製餡所ニ着イタ時、已ニ七十余人列ンデキタニハ嘆イタ。口ガ塞ラヌ驚様。

吉田豊吉氏商店ニ寄り長女ノ人ニ大豆ノ話ヲスル。三升分譲受ク。

午後〇時五十分カラ自室デ経済⁹⁸⁾ノ教授達ノ集リヲ開ク。上原、渡辺、松田三君来集。小林君ハ風邪ノタメ欠席。札幌農林学会ヨリ農学賞候補者ヲ出セトノコトニソレノ相談ヲシタ。高倉君、奥田君等モ話ニ出タガ、結局、松野伝⁹⁹⁾君ヲプロパート共ニ推サウトイフコトニ話ガ纏ツタ。ⓂでBone Chinaノ一輪サシ花瓶ヲ求メタ。ソレハ堀越君ヘノ贈物ニスル積リダ。

二月十八日 (日)

米国ノ対日処理案ヲラジオデ聞カサル。其一ニ国体ノ変革ガアル。言語道断ノ不遜トイハネバナラヌ。憤慨ノ極デアル。

朝、防空壕ノ防雪ヲヤル。スコップヲ手ニシタノハ全ク久振りダ。未ダ充分ノ力ハ出ヌ様ダ。午后、月寒^天ニ行キ野菜ヲ求メタ。ソノ際、^[畧]剪茶一斤 (三円余) 土産物トシテ出ス。澄子、午前、琴似山田方ニ行ク。もと子チャンニ硯箱ヲ持ち行ク。

二月十九日 (月)

[略] 二時半頃、家ヲ出デ月寒ニ向ツタガ、先方ニ著イタハ二時間近クモカカッタ。電車ノ連絡不良ニハアキレル許リ。^天デハ牛蒡ノ外ニ長芋、ソレニ又リンゴ六号ヲモ入レテ呉レ嬉シカッタ。而カモ時遅ク、店デハカーテンヲ下ゲテアッタノニ、能クモ親切ニシテ呉レタモノト思フ。

二月二十日 (火)

発信 ○学振 (私費請求書)

[略]

二月二十一日 (水)

朝、零下二十五度トノコト

北海貯蓄ガ今般、拓銀ト統合ニ決シタ旨、新聞ニ出ツ

朝起キルト非常ナ寒サニハ驚ク。台所ノ水槽ノ上ニ相当厚イ氷ガ張ッテキタ。[略] 水曜会ニハ今度モ小樽ノ早川君出席。伊藤¹⁰⁰⁾会長上京不在ノ為、佐藤¹⁰¹⁾副会長代理。大野¹⁰²⁾君、去ル十六七両日ノ帝都空襲ノ話ヲスル。隣席ノ永井¹⁰³⁾君ガ自分ニ向ヒ、二、三日、御令弟ノ河西様ガ病院ニ見エタガ、アレハ「カワニシ」ト訓ムカ「カサイ」ト訓ムカトノ質問。興農公社製バター十二斤、経済教室ニ配給ニナル。

二月二十二日 (木)

農政演習休ミ。ハツ子カラ「明日着札、出迎頼ム」トノ来電。余リノ突然ニ^[何か]今ノ為メ

グラウカト益子ト話ヲスル。[略]

二月二十三日（金）

高山夫妻、朝七時二十分発急行デ来札。出迎ヘル。百合子¹⁰⁴モ勿論一緒。
高山氏ノ来宅ニ面ジテ四時間目ノ農史ヲ休ム。高山一家ヲGホテル¹⁰⁵ニ案内シヨウト思ヒ、ホテルニ電話掛ケタラ日本間ハ二、三日前ニ約束済ミ。又、洋食堂デハ行列ヲ作ル必要アリトノコトニガツカリ。ソノ内ニ立原¹⁰⁶支配人ニ交渉シタラト思ヒ付、早速サウシタラ考ヘテ見ヨウトノコト。後デ自宅ニ全氏ヨリ電話アリ、日本間ヲ提供スルトノコトニ嬉シサ夥シ。五時開室トノコトニ四時少シ前ニ宅ヲ出ヅ。丁度定刻ニホテル着。間モナク食事出ル。「ターフン¹⁰⁷ニキンコ¹⁰⁸ツキ」「貝柱、カニノテンプラ」「アスパラ」「アスパラ入リスープ」「大豆萌シノ酢物」「御飯」トイッタモノデ美味。皆、盛ンニツク。残物ナシ。高山ニ色々軸物ヲ見セル。相当ノ眼識ガアル。全君ノ年収一万三千元トカトイッテ気焰ヲ挙グ。馴鹿^{とながい}ノ肉ヤ鱒ノ塩引、バター（2ヶ）土産物トシテ持参。外ニ食べ残りノユデ卵、パン、キウリノ奈良漬ナド甘シ。

二月二十四日（土）

高山夫妻新発田へ立ツ。保雄来宅。

[略] 高山夫妻、午后二時迄ノ列車デ郷里新発田へ向ケ出発。七十八才ノ老母見舞ノタメダ。午前中、教室ノ食堂デ試験場経営試験農家寺島氏ヲ中心ニ渡辺教授ガ主トナッテ、座談会ヲ開ク。十人位ノ家族デ居宅四十坪位。ソノ附近ノ農家ハ平均一万円ノ収入ガアルト。帰宅スルト保雄ガ茶ノ間ニ上ッテ居タノニハビツクリ。帯広ノ獣医畜産¹⁰⁹ノ第二次試験ガ済ンデヤッテ来タモノダ。明治屋ニ行キオートミールヲ受取ツタ時、例ノ店員ガ自分ニ向ヒ、モウオートミールモ最后ニナルカモ知レヌ、今カラお粥ヲ食ベル練習ヲシテ置カネバナルマイトノ注意ニガツカリ。

二月二十五日（日）

敵ノ有力機動部隊本土近海ニ現出、本日午前七時半頃ヨリ艦載機ヲ以テ関東地方ニ来襲

「ごみ漁りほろも目立たぬ世となりぬ」

午前中、益子ハ保雄ヲ連レテ北八条ノ成田方へ行ク。ソノ序デニ吉田味噌醤油店ニ立寄り大豆ノ分譲方ヲ勇敢ニモ切り出シタラ、略ボ成功シタラシイ。サスレバ毎月味噌ト一緒ニ分ケテ貰ヘルカモ知レヌト喜バシサ大。今日ハ終日家ニ立籠リ、学振ノ宇都宮農林専門¹¹⁰ノ三教授ノ補助研究ノ継続申請ニ関スル書類ヲ調べル。澄子モ朝出掛ケタ儘（茶ノ湯）、夕方迄帰ラナカッタノデ、自分一人留守シ、シンミリト調べ物ガ出来テ楽シカッタ。館屋大和屋ニ電話カケ餡ガ出来タ時ニハ五貫目カ十貫目頼ムト申シタラ、引受ケテ呉レタ。老母ノ声ラシカッタ。ルンペンストーヴガ燃エナクナッタ時、半分ニ切ツタ薪ヲ入レタラ盛ンニ燃エ出シタ。

二月二十六日（月）

発信 ○大和屋吉田裕保氏（(ハ)）

○学振（原稿、速達書留）

○大野精七教授（手紙ヲ小使ニ持タス。宮越四郎氏三女実子女子医専¹¹¹受験ノコト）

散髪

午前中、月寒ニ行き、天ヨリ野菜（キャベツガ大部分デ白菜少々）ヲ沢山両手ノ風呂敷ニ包ミ込ムデ帰ル。実ハ、今日ハ玉葱以外野菜ハ一切発売セストノ貼紙ガドーアニシテアッタニ不拘、奥ノ土間ニ自分文案内サレ、大切ナ野菜ヲ求メ得タ。両手ニ堪ヘヌ重サダ。バスノ中デモ電車ノ中デモ、若イ婦人ニ荷物ヲ持ッテ上ゲヨウトイハレタリ、或ハ席ヲ讓ッテ呉レタリ、非常ニ親切ナ目ニ逢ヒ感謝シタ。昼食后、上原床屋ニ行ク。江原¹¹²⁾高女校長モ居ラレタ。ソレカラ岡本館屋ニ寄ッテ（来月二日発売）、大学ニ行ク。新法経会論叢（戦争ト食糧掲載）、教室ニ届ク。暫ラク感冒引籠中ノ小林教授ト本館ノ階下ノ裏口ノ辺デブツカリ同道シテ帰ル。学論、遅クナッタガヤット何度モ読ンデ判ッテ来タ。今少シ待タレヨト全君ニ話ス。ソレヨリ先キ、荒又君ノ部屋デ国民服儀礼章ヲ受取ッタ。全君得意先ノ洋服屋カラ入手シテ来タトノコト。嬉シカッタ。学振ニ「食糧増産ト有畜経営ノ実績の研究」（継続）ノ援助補助申請ニ対スル意見（関係委員トシテノ）ヲ書キ、四枚ノ書類ト共ニ全会ヘ発送ス（書留速達）。

二月二十七日（火）

発信 ○学振第十二常置委員会（(ハ) 速達、欠席通知）

東屯田通りノ桶屋ニ寄りニ斗樽ニケ注文

朝、拓銀デ五十円引出ス。保雄ハ厚別行ノ切符買ヒニ、十時頃駅ニ行ッタサウダガ、大行列ニ恐レヲナシテ買ハズ、ソノ代リニ樺太婦リノ切符ヲ求メテ帰宅シタトノコト。握飯六ツ持タセ、午後六時家ヲ出立、八時発ノ急行ニ向ッタ。開田店カラ甘酒ヲ四本求メ、ソノ半分ヲ濃縮シテ三人デ飲ム。ソノ内ニ澄子モ帰宅。午前中、収久衛君来室。原稿論文ヲ見テ呉レトテ置イテ行ク。

二月二十八日（水）

学部長、学生主事、評議員改選。伊藤部長、高松¹¹³⁾主事再選。井口君評議員ニ新選。

スキトンデー寸腹ヲ作ッタ上、水曜会ニ出席。全会デハ帝国油糧札幌出張所長西川氏ノ動植物性油ニ干スル話アリ。本日ノ出席者ハ四十余人八十二%余トイフ、近来希有ノ好成绩。午后三時頃、経済二年ノ富樫君、来月十日入営スルカラトテ色紙ト画帖ヲ部屋ニ持参。今総長ト伊藤農学部長ノ書ハ画帖ノ先端ニ載ッテキル。何レモ落款ガ押ッテキル。自分ノ所ニ色紙ヲ持ッテ来タノハ、実ハ漢字以外和歌ヲ書イテ貰ヒタカッタラシイノデ、自分モコレハ一寸閉口ノ体。今日ノ水曜会デ西川氏ノお話ノ前ニ、小樽ノ会員タル藁工品配給組合(?)ノ責任者某氏ノ全品ニ干スル話ヨリ筵、縄、吠ハ来年ハ絶対ニ無配給ヲ覚悟セネバナルマイカラ、今ノ内カラ節約ヲ希望スルトノ話。教授会ガ済ンデカラ歩イテ帰宅。着イタハ七時二十分頃。今夜、山田勝美君来宅。十二時過迄話ス。

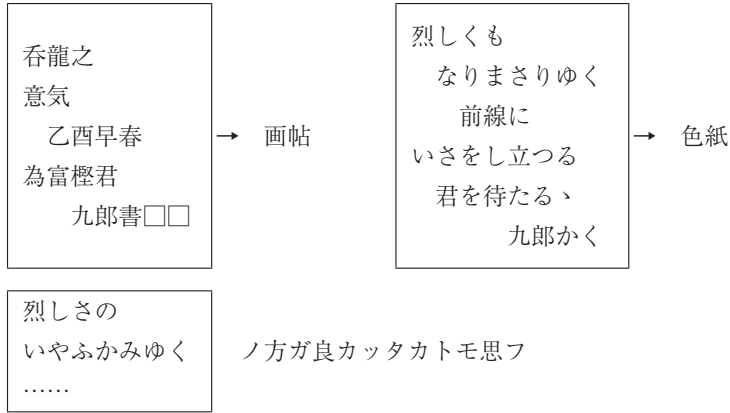
三月一日（木）

発信 ○駒井徳三氏（(テ) 著書礼状）

○宮越四郎氏（(ハ)）

富樫君ニ画帖ト色紙ヲ渡ス

午前中、教室ニ富樫君、昨日依頼ノ色紙ト画帖受取りニ来ル。学校ヨリノ帰りニ大〇店デ色紙（金箔ヲ散ラス）十枚（九円八十銭）求メル。彰華堂デ「富士ニ祠」ノ軸物（表層替）ヲ受取り帰ル。



三月二日（金）

- 発信 ○高山保雄（（デン）『ハイッタシラセアリ九』
○成島勇氏（（デン）『マツウラハイッタナカ』

早朝、岡本館店ニ出掛ケル。著イタハ六時（丁度）ダノニ、既ニ三十余名キタ。七時半頃開ク。老母ガ二度列ンダ人ハ遠慮セラレタイト叫ブ。一旦帰宅シ早中食ヲ認メテ登校。午后、月寒ニ行キ刃デ玉葱ト馬鈴薯ヲ求メル。夕方突然、保彦¹¹⁴、内原訓練所ヨリ帰ッタトテ成川下宿カラヤッテ来ル。丸々ト肥ッテキル。ユデ薯ヲ焼イテバター添ヘテ出ス。内原デ空襲ノ話ナドスル。両親ガ新発田ニ行ッテ、保彦ト行キ違ヒニナッタコトヲ非常ニ憤慨スル。午后、後藤義英君（保雄ノ友人、旭川市立中学出）ヨリ保雄宛『ゴトマツウラタカヤマコウカク』トノ電報アリ。直チニ保雄（帰豊¹¹⁵ 中）ニ宛テ自分ヨリ其旨打電。月寒行バス待合中、北海農園デ金時一升（三円）求メル。ソコノ夫人カラ聞ケバキヤベシー合28円モ今年ハスルト。

三月三日（土）

- 発信 ○後藤義英氏（旭川市立中学新卒（ハ）

早朝、吹雪ノ中ニ岡本店ニ著イタノハ六時十五分。既ニ四、五十人来テキタニハ驚ク。自分ヨリ七、八人前デ売切レトナリ、八時半迄二時間以上待ッテキテコノ始末ニ腹ダ、シサ甚シ。午后三時カラノ市常会¹¹⁶ニ出席。阿部¹¹⁷道支部事務局長モ陪席。三沢市長ト話ノ上ニソリガ合ハズ、兼ネテソノ事ハ知ッテキタガ、今日、相当ナモノダト判ッタ。ソノ席上、自分ヨリ戦局ノ苛烈サヲ大胆率直ニ国民ニ知ラセルコトガ大切ダト大声ニ発言シタラ、大多数ノ委員ハ同意シタ。只一人岩沢¹¹⁸翼壮団長ハ、ソレハ政府モ慎重ニ考慮中デ、若シ余リニ知ラセ過ギルト重大ナ影響ノ発生ヲ心配シテキルラシイト述ベル。五時カラホテルノ招待会。例ニヨッテ支那料理。市長ノ食欲ハ随分ヨイ様ダ。自分ハ恐ラクソレ以上デアラウ。佐藤一雄¹¹⁹君ガ隣席ニ座ヲ占メテキタガ、今日、心臓ガ悪ク（結滞）注射シテ貰ッタト腕ヲ出シテ見セル。教育課長モ自分モ、以前、ソナコトガアッタ。働クト気分ガヨクナルトイヒ出ス。丁度、自分ノ場合ト全一。

三月四日（日）

- 着信 ○高山保二氏（（ハ）新発田帰省先ヨリ）

大和屋ノ前ヲ通ルト三月中休業ノ張紙ガシテアル

午前、琴似ニ行ク。琴似街道停留所ヨリ歩ク。すづね屋デ女兒ノ草履袋三ヶ求メル。妻君曰クcorn flakesハ来年末ニハ入荷スルデアラウト。嬉シカッタ。午後、月寒ノ肉屋ニ行ク。一昨日、主人ノ話トハ違ヒ、昨今両日共肉ガ入ラナカッタト。二、三日中ニ来ルデアラウト妻君イフ。帰りハ歩ク。土田採種園デ玉蜀黍一升（馬キビト老母説明）トモチキビ二十本求ム。豊平ノ雨下店デ味よしわかめ十缶求メル。ソノ前ニ一荒物店デ鰯佃煮百匁、特ニ自由販売デ求メル。mmハ第一化学研究所小野氏方ニ念ノタメ寄ッテ見タガ、mmハ小売ハセヌト妻君イフ。前後スルガ、琴似カラノ帰途、例ノ麩屋^[ア]テ出来立テノ焼イ[タ]ノヲ二本（75銭）求メル。

三月五日（月）

保彦、晩、樺太へ出立

[略] 保彦、夕方突然来宅。今晚、帰豊ニ決メタト。夕食ヲ出ス。新発田ノ親類ニ保彦カラ昨日カ打電。早ク帰豊スル様頼ンダ由。

三月六日（火）

[略]

朝、跨線橋ノアタリカラ園芸ノ沢田¹²⁰⁾助教授ト道連レトナリ登校ス。同君、宅カラ常々歩イテ来ルラシイ。五十分位カ、ルト。[略]

三月七日（水）

午前中、月寒ニ行ク。伊藤肉店へハ今マデ数度無駄足ヲ運ンダ。未ダ入荷セズ。又、何時ハイルカモ判ラズトノコト。遂ニ自分モ全ク断食ノ外ナキニ立至ッタ。水曜会デ北海道種苗協会理事長宮沢春水氏ノ一蔬菜談アリ。出席ノ宮脇名誉会員ニ、保雄ヤ松浦代議士令息ノ同校入学許可ニツキ、一寸お礼ヲ述ベタ。成島君カラモ松浦代議士カラモ、今総長ニハ未ダ礼状ハ来ヌトノコト。[略]中央農業会カラ他へ転職シタイトイフ松田清君ノ身許調ベテ松田教授ノ所ニ廻ス。

三月八日（木）

北一西二十三、高田[㊦]商店

発信 ○池田善長氏 ((テ))

午後、琴似ニ出掛ケル。本通りノ製粉所ニ寄り主人ニ分与方交渉シタガ、「ソノ余裕ハ今ノ限無イ。アナタハドナタデスカ」ト尋ネラル。実ハ自分ノ方カラ大学ノ関係者ダガト切り出シタノデアッタ。随分、肥満シタ親爺サンダト思ッタ。ソレカラ山田方ニ上ル。茶ノ間ニコチラカラ進ンデ通ル。紅茶二杯（砂糖沢山）、ホットケーキ、フカシ馬鈴薯二皿（バター砂糖カケ）、コーンフレキ（砂糖カケ）トイッタ、砂糖ヅクメノ馳走ニナッタ。帰りニ砂糖（ザラ目）一袋貰ッタ。駒沢¹²¹⁾君ノ母堂来宅。益子応接。全君結婚決定ノ話ダ。自分モソレデ安心。[略]

三月九日（金）

市役所ニ保雄ノ戸籍謄本下附願ヲ出ス。[略]

農学部入学検定試験二日目、自分担当ノ英語受験者四名

午前中、高山一家、新発田ヨリ帰札シテキタ。午前十時カラ十一時半迄、英語ノ検定試験ヲ行ッタ。帰りニ彰華堂デ軸物（小琴女史書）ノ修繕シタモノヤ軸画二ツヲ受取ッタ。夕方、駒澤君ノ母堂来宅。全君結婚ノコトヲ相談。寒イ応接室ニガラへト長居

サレテ自分ハ閉口。

三月十日（土）

未明、B29帝都来襲、相当ノ死傷者ヲ出シタ

十一時頃、第二農場訪問中ノ高山カラ教室ニ電話アリ。早速、全場ニ出掛ケル。ゲルンジー乳¹²²⁾ヲ四、五合飲ム。

[略] 畜産ノ村田善一¹²³⁾君来宅。菓子折（マキカステラ）持参。新博士通過ノタメラシ。塩見君へ自分（益子）ノ方カラ村田君ノお芽出度ヲ電話デ申シ送ッタコトヲ、塩見君カラ村田君ガ聞キ込シテ申シテキタ。

三月十一日（日）

ハツ子、百合子、今夜急行デ帰豊

昨夜、高山一家ハ成田方ニ止ッタ。昨晚、真駒内ノ藤本¹²⁴⁾場長方デ酒ノ馳走ニナッタ。高山ハ泥酔ノ為東ト西ト間違ヒ、帝織ノ杜宅ヲ尋ネテ大通西十何丁目カノ渡辺十郎氏（弁護士）方ニ飛込シタトイフ武勇談ヲ演ジ、其結果、遅ク収久衛様宅ニ届イタノデ、遂ニハツ子、百合子ト共々全氏方ニ宿泊スルニ至ッタ。朝、吹雪ノ中ヲ冒シテ再度、国餅ノ行列ニ加ハツテ見タ。午前中、三国保三郎¹²⁵⁾氏（南六西十丁目、マサヨシ氏父）来宅。ユックリ四方山ノ話ヲスル。其内ニ高山一家、成田方ヨリ帰り来ル。間モナク静子モ来宅。ハツ子ハ百合子ヲ伴ヒ晚六時頃家ヲデタ。八時ノ急行デ帰豊セントスルノダ。

三月十二日（月）

午前中、月寒ノ天店ニ行ク。午後、農学部第二次入学者決定委員会ニ出席。晚六時カラGホテルデ、上原君へ法経会記念論文集（在職卅年）贈呈ノタメノ会ヲ開ク。佐藤君ノ挨拶ニ次ギ上原君ノ微ニ入り細ヲ穿イタ自己経歴談アリ。余リニ自慢ラシク少々当テラレ気味ダ。高岡先生モ御出席。

三月十三日（火）

大学牛乳（上乳）ヲ取り始メル。一合（二百瓦^{ぐらむ}）。

三月十四日（水）

高山、滝川ヘ向ケ出発

朝ノ列車デ高山、滝川方面ヘ出立スルノデ自分ハ見送りノタメ、一中前停留所カラ同車。駅待合室マデ送り届ケテ自分ハ辞去、登校。昨夕ノ高山ノ話デハ、本日ノ昼ハ札幌ニ居サウデアッタノデ、然ラバ水曜会ニ自分ノ来客トシテ列席サセ、都合ニヨレバ十分カ十五分、樺太ノ話デモシテ貰ウカト思ッタガ、急ニ朝、奥地ヘ立ツコトニナリ、沙汰止ミ。午後三時過ギ市役所デ保雄ノ戸籍抄本（物ハ膳本ト全一効力ノモノ）ヲ受取ッタ。水曜会デハ真崎¹²⁶⁾会員令息（海軍機関中尉、輝夫君）ノ飛行機事故殉職ニ対シ一同黙禱ヲササゲタ。

三月十五日（木）

発信 ○高山保雄（(テ) 膳本）

自分ノ農政学講座後任ノコト

自分ノ農政学講座ノ後任担当者トシテ、今日デアッタカ、フト松田教授ヲ推シテハドウカト考ヘ出シタ。ソシテソノ后ニハ、荒又助教授ヲ据エタラ妙デナイカト考ヘ出シ、コレハ至極妙案トホホエマレタノデアッタ。

三月十六日 (金)

三月十七日 (土)

琴似ノ製粉所カラ入手シタ蕎麦粉 (一^{かんめ}五百円) ヲ勝美君ガ理学部教室ニ持参。澄子、持ち帰ル。山田方ノ尽力デ成功シタノハ嬉シイ。交渉后十日目ノコトダ。朝、行啓通り橋本製粉所ニ立寄り、蕎麦粉ノ分譲ヲ交渉シタガ、内皮ノ付ケタノナラ或ハ来月アタリカラ製粉ヲ始メルカモ知レヌトノコト。能ク頼ンデ置イタ。午后一時カラ経済四教授ニ自分ノ部屋ニ集ッテ貰ッタ。大学院特別研究生 (第一回) (経済ノ林¹²⁷⁾、佐々木¹²⁸⁾ 両君) ノコトヲ相談スル。自分ハ冒頭ニ近イトコロデ、林ハ目下チブスデ入院中ナル故、推薦ヲ遠慮シタシ、若シ八番位ニクツクコトガアレバ、最后ノ八番目ノ所ニ附ケテ置イテ貰ヒタイト希望ヲ申出シタ。

三月十八日 (日)

散髪

天皇陛下ニハ帝都戦災地御巡幸遊バサル

降雪

イツ迄今年ハ雪ガ続クヤラ。既ニ気節ノ遅レタコトハヒドイモノラシイ。朝、橋本製粉所ニ寄り、樺太産バター一^{ほんど}封度 (一本) ヲ与ヘタ。始メ、バターナラ沢山持ッテキルトテ一寸辞退ノ面持デアッタガ、遂ニ置イテ来タ。中村床屋カラ三吉神社ニ廻リ、駒沢君ノ拳式ノ時刻ヲ確メタ。午前中、益子、豊平ノ浜子ノ処ニ行ク。ソノ時貰ッタふのりヲ昨晚ノ味噌汁ニ入レル。アッサリシテ佳シ。午前中、岩見沢ノ齊藤君カラ益子ニ電話来リ。高山ハ稚泊連絡¹²⁹⁾不都合ノタメ、未ダ岩見沢ノ全君方ニ滞在中トノコト。今日ハ昼頃カラズツト、松野伝君ノ学論ニ対スル渡辺主査ノ審査要旨ヤ学位論文ソノモノヲ閲覽シタ。論文ノ大部分ハ読破シタガ少シ残ッテキル。随分粗雑極マル論文ダト感ジタ。昨日、成田様ノ叔母様来訪。鶉豆 (二、三升) 持参サレタ由。

三月十九日 (月)

三月二十日 (火)

三月二十一日 (水)

駒沢君婚礼

小林文男氏 (作治氏婿、三十六才、新東鉱業所豊富鉱山長、定山溪奥)

佐藤昌彦君ガ自分ノ留守中ニ来宅。故先生¹³⁰⁾ノ農業経済学ノ原稿 (明治二十一年) ヲ下サッタ。絶好ノ記念ダ。

十二時半迄ニ駒沢君宅ニ来ル様ニトノコトニ、丁度定刻ニ自分ハ益子ト共ニ同宅ヲ訪ネル。最初ニ父君ガ玄関ニ出テ来ラレ、大日向ノ叔母サントイフ人ニ初対面ノ挨拶ヲスル。座敷デ暫ラク待ツホドニ、駒沢君ノ書棚カラ本ヲ取り出シテ見ル。新渡戸¹³¹⁾サンノ農業本論、明治三十一年ノ初版ト三十六年 (?) ノ五版ト二種、又、近藤¹³²⁾博士訳孤立国モ異版二種ナド手ニ取ッテ見ル。又、河上肇¹³³⁾氏ノ農政学モ見エテキル。益子ノイフ所ニヨレバ、全君ハ頗ル付ノ蔵書家ラシイ。始メ自分モ益子ト共々新婦 (小林作次氏三女) ノ宅ニ出向ク計画ニ先方デハキタガ、予メ自分ガ辞退シタ。三吉神社ニ参集ハ二時トナッテキルノデ、ソノ少シ前ニ自分ハ駒沢君ト其ノ両親妹ト共々神社ニ自動車ニ行キ、次イデ全ジ車ハ新婦方ニ迎ヘニ行ッタガ、ソノ来着ガ遅レ、

幾度モ神社カラ催促受ケ恐縮。遂ニ他ノ縁組ノ方ガ先キニ挙式シタ。併シ挙式並ニ親族盃事トモ至極簡単ニ済ムダ。挙式前、両家ノ休憩室モ全一ノ部屋デアッタ。ソノ部屋ニハ多数ノ俳人ノ俳句ガ長イ横額ニ書カレテキタノガ掲ゲラレテキタ。全部済ンデカラ新郎新婦ハ新婦ノ母君ニ伴ハレ、下野写真館ニ自動車デ出掛ケル。自分等ハ自動車デ会場Gホテルニ行ク。先ヅ心配デアッタ席順ヲ一覽シタラ、ソノ目茶ナノニ驚イタ。矢張りホテル任セハ危険ト思ッタ。新郎ノ前ヲ主賓席（上原君）トシテアッタノデモ判ラウ。定刻五時トイフノニ開宴ハ六時半頃ニナッタ。写真館カラ新郎新婦ノ帰着ガ遅カッタカラダ。今日ハ市内イタルトコロ、自動車事故ガ多カッタサウダ。自分ノ注意ニヨリ開宴ニ先立チ、国民儀礼（宮城遙拝ト黙禱）ヲ川上氏（北九条校先生、大日向サンノ令嬢ノ夫）ノ発声ニヨツテナス。ソレカラ自分ガ一寸長イ披露ノ挨拶ヲ述ベル。皿（ポタージュ、魚、豚肉、其他、赤飯付）ガ済ム頃ニ、自分ノ指名ニヨリ来賓総代上原教授、全期生総代西内¹³⁴主計中尉ノ祝詞アリ。ソレカラ駒沢三郎氏（欣一君父君）ノ両家代表ノ謝辞アリ。最后ニコレモ自分ノ指名ニヨリ、渡辺教授ガ乾杯ヲヤッタ。上原君ノ祝詞ハ平凡。西内中尉ノソレハ元気ガアリ新味ガアッタ。赤飯ハ甘カッタ。小林君ナドハ大部分包ンデ帰ッタ。日本酒ガ出タ。自分ハ歩イテ帰宅。益子ハ駒沢君一家ト共ニ自動車デ帰ッタ。

三月二十二日（木）

発信 ○岩波六郎¹³⁵氏（(テ)）

○池田善長氏（(テ)）

五時カラ第一農場デ、里¹³⁶教授ノ停年退職ノ送別会開カル。伊藤学部長ノ相当長イ挨拶ガアッタ。里君ヲ挟ンデ伊藤、高橋¹³⁷両教授ガ席ニ著イタ。コノ三人ガーツノ机ヲ占メタ。白飯、豚汁（野菜ハ薯、白菜、玉葱）ガ出タ。自分ハ汁ヲ二杯飲ンダ。ソレニ大小ニケノリングガツイタ。リングハ、ソノマ、自分ハ家ニ持ち帰ル。ーツノ大ナル方ハ delicious デアッタ。又、牛乳モ持ち帰ル。井口、広吉、渡辺諸君ト同道歩イテ帰宅。

三月二十三日（金）

敵米ハ沖繩上陸作戦ヲ開始

三月二十四日（土）

三月二十五日（日）

午前中、月寒ニ行ク。バスハ悪路ノタメ運転休止ニ付、豊平月寒間歩イタ。帰りハリュック（馬鈴薯三貫）ヲ背ニ、風呂敷（ニンジン一貫）ヲ手ニテクッタノハ、相当ナ運動デアッタ。多量ノ馬鈴薯ヲ惜気ナク分ケテ呉レルヲノ好意ニ感謝スル。益子、薯ヲ見テ喜ブコト大。

三月二十六日（月）

夜遅クマデカカッテ、皇軍慰問会ヨリ出征学徒宛ノ慰問寄書トシテ、教室ノ分総計三十八人前ノ執筆ヲ了ヘタ。一々別ノ文句ヲ書イタ。

三月二十七日（火）

注文書（近著ノ）ノ手續ガココ数日カカリ、今日デ結了シテホツシタ。予算ハ二、三百円シカ残ラナクナッタカモ知レヌ。数日前カラ教室ノ渡辺君カラ頼マレテキタ、故佐藤先生ノ原稿「動植物資本論」（昌彦君ヨリ贈呈ノモノ）ノ、先生ノ直筆タルノ

証明ヲ書イテ呉レトノコトニ、今夜表紙ノ裏ニソレヲ書イタ。「本稿ハ恩師佐藤昌介先生ノ直筆ニシテ先生晩年ノ筆蹟ニ髣髴タルノミナラズ兩種ノ仮名ヲ混用セルアタリ先生ノ運筆上ノ永キ習慣ヲ示シ得テ妙ナリ茲ニ先生ノ講筵ニ列セル四十年前ノ当時ヲ顧ミ懐旧敬慕ニ堪ヘズ 昭和乙酉春三月 中島九郎謹識□～実印」

三月二十八日 (水)

一中¹³⁸⁾卒業式

発信 ○橋本製粉所 ((テ))

○松田清氏 ((ハ))

農政ノ講義ヲ終タ

朝、保雄ガ帯広カラヤツテ来タ。二十六日カニ帯広ニ樺太カラ著イタトイフ。十時カラノー中卒業式ニ列席 (国民服ニ儀礼章付ケテ)。安延¹³⁹⁾校長ノ訓辞ハ中々良カッタ。全窓会ノ祝詞ハ奥田会長ガ読ンダガ、文辞ハ学校ノ方ガ準備シテキタラシク内容ハ上出来デハナカッタ様ダ。福山副会長モ出席。藪父兄会長ノ祝詞モアッタ。運動場ガ式場デアッタガ、周囲ノ窓ハワザト開ケ放チ、又窓ガ所々破レテキルノデ、寒サニー寸閉口。併シ野外ハ快晴ノタメカナリ雪ガトケタ。教室ノ渡辺君ノ学論審査要旨ト動物資本論ヲ返ス。審査要旨ハ一寸心配モノダ。水曜会デハ、丁度前ノ席ニ帝織ノ大貫君着席。全社社宅ノ疎開問題ナド話サル。羽田君ノ名古屋空襲ノ話アリ。全市ハ全滅ラシ。幸ヒニ名古屋城ヤ駅ハ助ツタ由。東京ノ戦災者百万人、死者五万。屍体ヲ、トビロデ整理スルトイッタ様ナ話ヲ、一同ノ前ニ進ナガラ話サレル。

三月二十九日 (木)

三月三十日 (金)

野幌機農学校¹⁴⁰⁾第一回卒業式ニ参列

三月三十一日 (土)

発信 ○宮越四郎氏 ((テ))

四月一日 (日)

沖縄本島ニ敵米上陸

本日ヨリ急行列車廃止 (但シ例外トシテ東京下関間ニ限り一本存置)

函館稚内間ニ臨時普通列車ヲ運転即チ左ノ通り。

(下リ) 函館発九時十五分、稚内棧橋著六時十七分

(上リ) 稚内棧橋発二十時〇〇分、函館著十九時三十四分

四月二日 (月)

四月三日 (火)

発信 ○笠島彊一氏 ((テ) 一次ノコト)

収久衛君、今夕出發。弘前ニ入隊。全時ニ父、姉及繁ちゃんノ三人モ五所川原ヨリ三里ノ親戚方ニ疎開ノタメ同道。[略]

厚別ノ一次、自分ノ買物ニ出掛ケテキル間ニ、午前中来宅。長男敬一、一中入学シタトテ喜ブコト一方ナラズ。彼ノ持参シタ赤飯ヲ昼一同デ食シタ。美味甚シ。夕食ヲ早目ニ認メ、益子ト一次ト三人デ収久衛君宅ニ出掛ケル。届イタラ丁度出發ノ準備出来上ツテキタ所。公区長ノ挨拶ニ次ギ、収久衛君、元気克ク答辞ヲ述べ、ソレカラ自分が親戚総代トシテ謝辞ヲ述べル。服部工場長モ宅前ニ来テ居ラレタ。駅ニハ堀越君モ

見エタ。又、弘前高校ノ先輩氏家氏ニ収久衛君カラ紹介サレタ。一次ハ静子方ニ泊ル。静子、一人デ何かと留守ノ初メテノ晩ハ淋シカラウトイフノデサウシタ。自分ハ益子ト共ニ電車線路ヤ東屯田通りヲ歩イテ帰宅。寒サ甚シ。

色紙ニ

勤即 清

 ト三枚書ク。ソノトコロニ北村清（二中教諭デ経済ノ新入生）ガ、召集

令状ガ来タトテ来訪シタノデー一枚与ヘル。故郷ヨリノ土産ダトテ、リュックカラ小サキ包物ヲ出シタ。后デソレハ餅ト知レ、就床前ニ三人デ焼イテ食ベル。

四月四日（水）

水曜会デハ道新ノ社会部長石橋百一氏ノ昭南ノ話ガアッタ

助手以下、年度末ボーナス（三月末日付）ノ辞令ガ来タノデ各人ニ手交ス。夕方近く、一中前停留所カラ一次、敬一ト共ニ乗車、自宅ニ行ク。コノ兩人ハー中ノ入学式ヲ終ヘタトコロデアッタ。誓約書ヲ書キ与ヘル。自分ハ副保証人デアル。午后、農場ノ金木義次郎氏宅ヲ訪ネ、土産物ヲ出ス（若目カンヅメ三ツト色紙）。

四月五日（木）

午後七時小磯内閣辞表奉送

小磯内閣ハ昨年七月二十二日、小磯、米内連立ヲ以テ組織以来八ヶ月半敬一ノ入学ヲ祝ッテ色紙ヲ書ク。前ハ小筆デ、彰華堂製ノ色紙ニ書イタノデ不出来デアッタガ、今日ハ中筆ニシタラ氣持ヨク筆ガ運バレタ。各地放送局長ノ更迭ガ発表サレタガ、ソノ内ニ松内氏ガ仙台カノ局長ニナッタ。コノ人ハ彼ノ「兵ニ告グ」ノ放送デ名ヲ挙ゲタ人。

四月六日（金）

海軍大将鈴木貫太郎男、組閣ノ大命拝受

- 発信 ○岡川栄蔵氏（(テ)）
○高山保彦（(ハ)）
○ 〃 保雄（(ハ)）
○水口彦太郎氏（(ハ)）

午前中、松竹前ノ中本商店ニ行キ、例ノ若目ノ缶詰ヲ呉レト主人ニ交渉シタガ、今迄ノ分デ我慢シテ貰ヒタイトテ頑トシテ売ルコトヲ承知セヌ。三、四十個モ未ダ棚ニ並ンデヤルノニ。大門ノ雨下商店ニ歩イテ行ッテ若目ヲ尋ネタガ、売切レタトノコト。ソコヲ出テ豊平橋ヲ渡リ西ニ歩イテヨルト、何レダカ後方カラ自分ヲ呼び止メル様ナ声ガスルノデー一寸振り返ヘルト、浜ちゃんダ。聞ケバ正義君ヲ今、東病院ニ入レタ許リデ、帰宅スルトコロトノコト。肝臓ガ腫レ黒ク映リ、ソレニ心臓ガ衰弱シテ重体トノコトニ驚イタ。ソレカラ拓銀デ五十円引出ス。固ク出サヌ積リデキタガ、トウ〜我慢シ切レズ、遂ニ八百円台ニ減ッテ仕舞ッテ、淋シイコト夥シイ。数日前、池田善長君来室。家族ハ豊平ニ疎開シタト。

四月七日（土）

高粱「スイトン」ノ初物、初鯨ヲ食フ

朝、ドーア三ヶ所、□錠ニ取替ヘタ。早目ニ昼食。高粱粉（数日前、一次ヨリ貰フ）ノ「スイトン」ヲ益子ト共ニ食ベル。高粱ト麦粉ト半々ニ混ぜタモノダガ、相当ニ食ベラレル。固クテ張り合ヒガアル高粱ハ、自分ニ取り全クノ初物ダ。午后、留守中ニ

高山立雄¹⁴¹⁾ 君来訪。朝里デ入手シタ、獲レタ許リノ鰯十尾許リ持参。夕食ニ吾々三本宛食ベル。初物ダ。油ハ尠イガ美味ダ。西北小売市場ノ遠藤店ニ午后、大学ノ帰りニ立寄り、老主人カラオレンジ粉末ヲ求メタ。夕食后、熱湯ニ入レテ飲ンダガ、酸味モナケレバ殆ンド喉ニスルコトノ出来ヌ程ノ代物ニハ驚イタ。自分ガマズイトイヒ出シタラ、益子モ澄子モ口ニシナカッタ。鈴木大将組閣問題ハ、自分ノ耳ニスル限り不評判ダ。益子モ、組閣参謀長ニ岡田啓介大将ガ頑張ッテキルノヲ見テ、二二六事件ノ主要人物タルモノガ能クモ顔ヲ出セルモノダナド、自分ノ考ヘト全ク一致スルコトヲイヒ出シタ。

四月八日 (日)

親任式

益子ト澄子ハ、朝八時半ノ汽車デ厚別ニ疎開衣料ヲ預ケニ出掛ケル。自分ハ縁側デ新聞ノ整理ヲスル。陽ガ照ッテ背中ガ暑ク、カーテンヲカケザルヲ得ナクナッタ。

鈴木内閣成立、昨夜、親任式施行。内閣総理大臣兼外相大東亜相鈴木貫太郎、内相安倍源基、蔵相広瀬豊作、陸軍阿南惟幾、海軍米内光政、司法松阪広政、文部太田耕蔵^(蔵)、厚生岡田忠彦 (衆議院議長)、農商石黒忠篤、軍需兼運通豊田貞次郎、国務桜井兵五郎、国務左近司政三、国務兼情報局総裁下村宏、書記官長迫水久常、法制局長官兼綜合会計局長官村瀬直養。

四月九日 (土)

外相、枢相決マル

発信 ○松田清氏 ((ハ))

○高山保二氏 ((テ))

入学式 (十時半ヨリ)

農学部入学式ニ出席。ソノ直前ニ、新設農林専門部長島教授来室。農業作物及拓殖論担任者ノ件ニツキ依頼ヲ受ク。入学式デハ例ノ通り伊藤学部長及高松学生主事カラ話ガアル。経済新入生五名ヲ演習室ニ集メ、自分ヨリ一場ノ説明ヲナス。四月一日カラ、スチーム通ラヌコト、ナリ、今日ナド室内寒クテ閉口。ソノ上、給水止マル。夕方通ジタ。午后三時発表ニヨリ、沖縄海域ニ於ケル我軍ノ勝利ガ知レテ痛快。外相兼大東亜相ニ東郷茂徳氏。枢相ニ平沼騎一郎男任命。

四月十日 (火)

散髪

午后カラ、月寒^天ニ行ク。干城台ニ近イトコロデ乗合ガバンク、乗客皆降サル。一寸逆戻リシテ、例ノ土田採種園ニ寄ッタラ看板ガ取外サレテアッタ。矢張り愈々廃業シ種子物ハ何一ツナイトノコト。天ニバター半斤与ヘル。粗製塩ヲ一袋分譲受ケルコトガ出来、嬉シカッタ。ゴボー、カブ、ニンジン、ソレニ割合ニ重イ塩ト来テ居ルノデ、リュックノ重サタラ空前ノコトデ、肩ガダルイコト甚シ。午前中デアッタカ、駒沢君ガ来室。召集令状ヲ呈示。愈々二度目ノ応召ガ来ル。十三日、旭川ニ入隊トノコト。大爺君、数日来欠勤中。駒沢君ニ聞ケバ、コルセットガ破レ病気が少シ良クナイトノコト。月寒カラ帰りノ電車ノ中デ、先日、浜ちゃんニ逢ッタト大体全ジ辺デ、二人ノ子供ヲ連レ東ニ向ヒ自宅ニ帰ルトコロヲ見掛ケタ。マサカ言葉ヲカケル訳ニモキカナカッタガ、余リ悲シイ様ナ顔付モシテキナカッタノデ、正義君ノ病気モ少シハヨクナ

リカケタノカト、自分モ一寸安心シタ。

四月十一日（水）

駒沢君ノタメニ自分ハ丁度持ッテキタ画帖（二円三、四十銭）ヲ餞別トシ、先ヅ自分ガ「防衛如盤石」ト書キツケタ。ソレカラ南君ニ頼ンデ伊藤学部長ヤ今総長、高岡先生ノ順ニ染筆ヲ頼ンダ。伊藤君ノ墨痕余リニ淡イノニ驚クバカリ。今総長ハ自分ノ字ヲ見テ褒メテヲラレタト南君イフ。三時半頃カラ、駒沢君ノタメ食堂デ形バカリノ壮行会ヲ開ク。前触レシテナカッタノデ職員ノ集リハ多クハナカッタガ、女雇連モ出タ。自宅カラ白大豆ノ炒ツタノヲ持参シタトコロ好評。今日ノ農政学ノ時間（初講義）ニ、農政学ノ講義ハ行アタリバツタリデ順序モナク出タラメニヤル積リダト前提シ、河上氏ノ日本農政学ト新渡戸先生ノ農業本論トヲ示シ、前書中ニ出テキル新渡戸先生ノ説ニ対スル批判攻撃ノ個所ナド紹介スル積リデ居ツタラ、河上氏ノ昔、専修大学ニテノ社会政策学会講演会ニ於ケル講演（茲ハ未決監）ノコトナド話ス。農学部ノボーナスガ辞令ト現金ト、今日、全時ニ配布。四百五十五円余交附サル。

四月十二日（木）

駒沢君、入営ノタメ出発

一時五十分発列車デ旭川入隊ノタメ出発スル駒沢君ヲ駅ニ見送ル。全君ノ両親、令妹ノ顔ナド見受ケル。全君ハ前回全様、隣近所ニハ内密ニシ、只南隣リノ人丈ケニ打明ケタノデ、ソノ人ハ見送リニ来テ居タ。万歳ヲ自宅ノ音頭^分デー唱。併シニ唱シタ人モアツタ。帰リニ丸善ニ寄り、数冊ヲ教室分トシテ買求メ家ニ持ち帰ツタ。帰宅シタトコロ、益子ガアノ人ガ死ンダトイフ。ソレハ三国正義君ト知レタ。今日午前十一時過ニ死ンダノニ、益子ハ十二時少シ前ニ東病院ニ見舞ニ出掛ケ[タ]ノデ、一寸ノ違ヒデ死目ニ会ヘナカッタト。併シ、全君ノ両親ガ、リヤカーニ荷物ヲ積ンデ豊平ノ宅ニ帰ルトコロヲ、后カラ追ヒトメテ話ヲ聞イタトノコト。入院ノ後、僅カニ一週間トハ人ノ命ノ脆サニ驚ク。自分モ全君一家ノコトヲ思ヒ、非常ナル悲ミニ沈ンダ。何時ゾヤ、電鈴直シニヤッテ来タ時ノ快活ナ面貌、目ニ見エル様ダ。五時頃、益子ハ香典（二十円）ヲ持ッテ、故人宅ニ出掛ケタ。自分ハ心静カニ去年ノ日誌ヲ探ツタラ、四月二日ト十七日ト二回、正義君ノ来宅、電気手伝ノコトガ出テ居リ、懐旧ノ情ニ堪ヘズ。益子ハ、全君宅ニ出掛ル前ニ、故人ノ写真（結婚ノ際ノモノ、新婦ヲ紙片デ隠ス）ヲ神棚ニ飾ツタ。澄子ハ帰宅シテカラ灯明ヲツケタ。益子ガ出掛ケテ間モナク烈風ガサツト襲来。教室ニ土井君（昌彦君ノ奥様ノ弟）来訪。近ク退札帰村（静内）スルニ付、其挨拶ニ来ラレタ。前回見タ時ヨリモ若ク見エル。

四月十三日（金）

ルーズヴェルト大統領急死

朝、ラジオデ、ルーズヴェルト米大統領、脳溢血デ急死ガ報ゼラレ、吾ガ一家雀躍シタ。午后三時半カラ教室主任会開催。高校卒業生二十二名ノ農学部入学志願者（表面上ハ第二次トナツテキルガ、事実ハ第三次）ニ関スル受入態度ニツキ相談。本人宛（身体検査実行ノタメ）電報デ出学通知ヲ出スコトニシタ。帰ッテ、三国正義君ノ宅ニ寄り、霊前ニ礼拝。はま子氏ヤ故人ノ父母、妹等ニモ挨拶。他人ラシイ人ガ一人キタ丈ケダ。ローソクヲ益子カラ頼マレ、はま子氏ニ手渡シタ。

四月十四日（土）

正義君葬儀

十時カラ正義君ノ葬儀、益子参列

朝、保彦(小清水)カラ来電。今日着札トノコト。朝十時少シ前、実科¹⁴²⁾事務所ニ寄ツタラ、保彦ニブツカリビックリ。余リニ着札ガ早カッタノデ。益子ハ正義君ノ葬儀ニ参列。午后、保彦モ来宅ス。来ル二十五日入営トノコト。但シ樺太カ旭川カハ不明。

四月十五日(日)

午後三時五十分発ノ汽車デ保彦、樺太ヘ向ケ出發。先ヅ厚別ヘ行ク。

コノ日、保彦ト農実四級ノ小松¹⁴³⁾君トイフ男ガ来宅。保彦ノ教練証明書ヲ樺太ニ送ッテ呉レルト、ソノ親切ニ感謝スル。益子ガ応対ニ出タ所カラ聞イテ居ルト、中々社交的ナ男ニ聞エル。

四月十六日(月)

渋谷ノ祖母上¹⁴⁴⁾ノ一周忌

短冊(空爆ノ憂ヒモ知らず安らけくみまかりまして一年ハゆく)ニ認メ霊前ニ捧ゲタ

朝、宮脇富君ノ母堂ノ告別式ニ北十七条ノ恒¹⁴⁵⁾君ノ宅ニ出掛ケル。其前ニ葬儀ハ済ンデキタ。焼香ノタメ筵敷ノ上ヲ靴抜イデ祭壇前ニ進ンダトコロ、遺族席ノ宮脇君ガ靴ノママデト自分ニ注意シテ呉レル。随分気軽ナ仁ト思ツタ。午后、帰宅シタラ、琴似ノ富子様ガ右ノ葬儀ノ帰りニ来テキラレタ。今日デアッタカ、道水試場長大島幸吉君来室。函館水産試験場ニ入ッタ学生ヲバ学徒動員ノ場合ニハ、自分ノトコロニ廻シテ貰ヒタイトノコト。

四月十七日(火)

農学部新入学生宣誓式

十一時カラ宣誓式。経済デハ四、五人ノ出席。函館水産専門¹⁴⁶⁾ヨリ来タ学生ハ書ガ上手ノ様ダ。伊藤学部長ノ最后ノ言葉ノ中ニモ、本年ノ諸君ハ字ガ上手ダナト褒メテキタ。

四月十八日(水)

水曜会デハ、前会員ノ越山¹⁴⁷⁾氏ノ東京戦災(爆弾ノ跡視察)ノ話アリ。今日デアッタト思フガ、三年ノ金田¹⁴⁸⁾君ガ平岩稔君ノ遺稿集ヲ一部、部屋ニ持参。戦災ノタメ僅カ三十部シカ製本出来ズ。ソノタメ教室分ハ自分丈ニ贈ラレタノデ、先生方ニ回覧シテ貰ヒタイトノコト。自分ノ書イタ表題ガ割合ニ能ク出来テキテ嬉シカッタ。

四月十九日(木)

門ノ前ノ道路ニ面シタトコロヲ耕ス

自分ノ農政学ノ講義ハ、今学期初メ以来、従前トハヤリ方ヲ変ヘ出鱈目ニ、アレヤコレヤ講釈スルコトニシタ。今日ハ午后二時間続キノ時間ニ、横井¹⁴⁹⁾博士全集ヲ示シタリ、佐藤¹⁵⁰⁾大先生ノ農業汎論ノ原稿(明治二十一年一月)ノ冒頭ノトコロヲ読ミ聞カセタリ、ゴルツ¹⁵¹⁾農政学ノ冒頭ノ文句(農業ノ範圍)ヲボールドニ書キ付ケタリシタ。

四月二十日(金)

朝、道新ニ大キク阿部良夫¹⁵²⁾君ノ病死記事ガ載リ、大キナ写真モ出テキタ。前週ノ水曜会アタリニハ一寸後姿ヲ見タ様ニ思ツタノニ、何ントハナナイコトヨ。明治二十一年生トアル。午前中、静子カラ電話アリ。昨日朝、収久衛君ノ母上一行三人揃ッテ再

ビ帰宅サレタト。故郷ニ帰ッテハ見タモノ、淋シサニ堪ヘ兼ヘタタメトノコト。三田村¹⁵³君ヲ畜産ニ訪ネ、牛乳ヲ二合ニ増ス様ニ頼ンダ。

四月二十一日（土）

二時間目ノ一年農史ノ時間ニ、菅沼貞風¹⁵⁴ノ大日本商業史ヲ紹介シ行ヲ読ミ聞カセたら、一同興味深ク耳ヲ傾ケテキタ。帰宅スルヤ吉川君入来。全書ヲ借覽シタシトノコト。余程感ニ打タレタモノラシイ。全君ハモトへ水産希望デアッタガ、遂ニ自分ノ講義ニモ興味ヲ持ち出シタモノカ。愉快ナコトダ。放送局ノ小林氏カラ電話来ル。㊦ニ開催中ノB29展覧会ノ水曜会招待時ヲ、今日ノ二時カラト思ヒ込ミ全店ノ三階ニ上ツタラ、戸ノトコロニ今井¹⁵⁵社長ガ居ラレ四時カラトノコト。自分デ観テ廻ル。翼ハソレ程大キイトハ思ハナカッタ。落下傘ナルモノヲ初メテ見タ。

四月二十二日（日）

快晴

阿部良夫君ノ葬儀（九時ヨリ十時）ニ列席。応接室ニ入ル。葬儀委員長東¹⁵⁶社長、東富七¹⁵⁷氏、其他数氏ガ居ラレタ。大野教授ガ甲型国民服ヲ着ケ、ネクタイノ露出ヲ氣ニシテ、自分ニコノママデ可カラウカナド、尋ネル。真言宗（成田山新栄寺）ニヨル、白石僧正ノ弔詞ハ普通文ニ近ク珍ラシク感ジタ。尚ホ位牌ニハ阿部良夫之靈ト俗名ガツケラレテキタ。生花ガ幾籠モ備ヘラレテキタ（一般ニハ供物ヲ断ッテキタ）。立派ナ「リンゴ」ガ数ヶヅ、壇上各所ニ備ヘラレテキタ。東社長ノ弔詞ハ淡々タルモノ。最初ハ赤十字社長ノ弔詞、次ハ社長、長官（新熊谷¹⁵⁸長官代）、今総長、学士会代表者（大野君）ノ順。一中同窓会ヤ水曜会ノソレハ靈前ニ捧ゲタ丈ケ。但シ披露ハサレタ。焼香ノ場デハ友人総代トシテ地木¹⁵⁹取締役、小林薫君ガ出ラレタ。遺児（男子）ハ利口サウナ目付ヲシテキタ。自分ガ電車デ跨線橋アタリヲ通ルト、以前、会ノ終リニ阿部君ト夜二人連レデ北ニ帰ッタモノダナド、思ヒ出ス。社葬ハ何ンダカ冷ヤカナ感ジガスル。[略] 昼少シ前、帰宅スルト三国正義君ノ父上来テ居ラレタ。間モナク静子、又ソレヨリ後レテ山田ノもと子チャン来ル。自分ハ昼カラ南方道路沿ヒノ防空壕ノ穴埋メ。ソレニ、ニワノ大石ヲ動カシ込ンダ。ソレカラ、ポプラノ古株ヲ抜き取ツタ。ソレニハ隣リデ働イテタ佐藤様モ喚声ヲ発スル。

四月二十三日（月）

牛乳ニ合増ス

□□□ニ診断書ヲ持ち行ク（本日付）

午後四時カラGホテルデ、放送局ノ「農家ノ時間」ニ関スル座談会開催。出席。手島、幸山、河村、森川^{〔二字空欄〕}諸氏。ソレニ放送局カラハ部長其ノ他三名出席。五、六月ノ番組ヲ相談スル。

保彦ガ今日来宅スル筈デアッタガ、遂ニ見エヌ。

牛乳ガ今日カラ二合モ殖エテ居タ。余リニ実現ガ早イノニ驚カサレタ。三田村君ノ好意ダ。二十日ニ頼ンダノニ、何ント早イコトカ。感謝ニ堪ヘヌ。

四月二十四日（火）

橋本製材所ニ立寄ル

保彦、余市ニ入隊ノタメ出発

自分ト益子ト澄子ト三人、札幌駅ニ保彦ヲ見送ル。保彦ノ友人数名モ見エタ。又、実

科事務所ノ中村氏(?)ノ顔モ見ユ。保彦ハ友達ト円陣ヲ作ッテハシヤグ。今迄ノ壮行会トハ一寸変ツタ、陽気ナ風景ダ。コレトイフノモ、内地防禦ノタメノ出征デアルカラカモ知レヌ。

四月二十五日(水)

今日カラ桑港さんこう会議

発信 ○三田村健太郎氏((テ))

○金子藤次郎氏((テ))

水曜会ニ於テ、岩波日銀支店長ヨリ転任(神戸ニ)、退会ノ挨拶ガアツタ。

四月二十六日(木)

今日デアッタト後カラ思フガ、道農業会〔道農会〕ノ東¹⁵⁹⁾専務来室。東京ノ池田善長君転職ノ件ニツキ相談。東君カラ池田君ニ手紙出ス時ハ、其前ニ自分ニ一覽ヲ乞フトノコト。結局、受入レルコトニナルラシイ。囑託カ何カノ名義デ。

今日デアッタト思フガ、明峰先生ガ来室サレ、菅菊太郎¹⁶⁰⁾氏ノ近著「愛媛県農業史」ヲ学位論文トシテ、自分ノ所ニ提出サセタイト思フガトノコト。一覽ノ上ノコトニシタ。

四月二十七日(金)

経済新入生歓迎会

菅氏「愛媛県農業史」(上巻)明峰様ヨリ借ル

発信 ○池田善長氏((ハ))

午前十時カラ、経済新入生歓迎会ヲ第一農場デ開クトイフノデ、定刻ニ出掛ケタ。教官ハ未ダ誰モ見エテキナカッタ。二年ノ野町君アタリガ指図シ、女事務員連ガ盛ニ料理ヲスル。十一時過ニヤット開催。土屋¹⁶¹⁾、南両君ヲ除キ出席。一年目カラハ五人(平常出席者)出タ。

今日デアッタカト後デ思フガ、明峰先生ノ部屋カラ菅氏著愛媛県農業史(上巻)ヲ借り来ル。新入会員歓迎会ニハ赤飯、ホットケーキ、芋、味噌汁、牛乳等ガ出ル。米ナドハ当別アタリカラ入手ノ由。牛乳ハ五合位飲ンダ。出席者全部、感想談ヲヤル。二年深沢君ハ、四年前ノ自分ノ寄稿、北大ノ環境ノ中、寮歌ノトコロヲ読ミアゲ、小川ノホトリハ入江タカ子¹⁶²⁾ノロケーションニ使ハレタトアリ、皆ヲ笑ハセタ。

四月二十八日(土)

四月二十九日(日)

天長節ニ欠席。一昨日ノ夕方以来、腹工合ガ能クナイ。大食(殊ニ一昨日ノ会デ牛乳五合近クモ飲ンダ)ノ結果ダ。朝、自分ノ臥床中ニ函館ノ本庄氏令息(予科新入)来訪。土産(鮭缶3、スルメ一折)持参。

四月三十日(月)

道路使用願提出(佐藤氏ト二人分)

道路使用願(期限五月一日ヨリ来年四月卅日)

山田ヂイ¹⁶³⁾様、朝来ル。早速、彼ヲ連レテ三国氏方ニ行キ、落葉ノ丸太ト竹棹ヲ分ケテ貰ツタ。「オンコ」ハ明日ニスル。丸太ヲ両切りニシ、皮ヲ剥ギ先端ヲ削リ、ソレニ焼キヲ入レル。自分ハ昨日ニ引続キ南ノ道路沿ヒヲ耕ス。又、例ノ最大石ヲ脇ニ穴ヲ掘リ、山田ノカヲ藉リテ埋メル。サツパリスル。午后遅ク、一寸出校スル。村川

君ノ辭職願ニ捺印、且ツ国旗ニ署名スル。帰宅シタラ、生垣用ノ「クヒ」ガ殆ンド全部打チ込マレ、何ンダカシマリガ付イテ氣持ヨシ。午後、出校ノ途中、薄野ノ市工事事務所ニ立寄り、「道路占用許可願」（隣宅佐藤定雄氏ト二人分自分ガ総代）ヲ提出。合以下ヲ付ケヌ様ニナツタトノコト。願書ニハ二十四坪三合（自分）、十坪五合（佐藤氏）、計三十四坪八合トアツタノヲ、自分ノハ其ノママトシ、佐藤氏分ヲ二合増シテ十坪七合、計三十五坪ト先方デ書キ直シテ呉レタ。料金モ二人合計ノ分ガ自分宛ニ来ル筈。其ノ時ハ佐藤氏ハ10坪分受取ルコトニセリ。

五月一日（火）

朝、先ヅ以テ落葉ノ丸太二本、三国氏方ヨリ分ケテ貰ツタ。ソレカラ、益子ト二人デ隣保車デ以テオンコ苗木七十本、全宅ヨリ求テ縁側近クニ運び込ミ、コレデー安心。朝、田代兵八氏来訪。佐賀県産ノ箒（稻藁製）一本恵マル。玄関先ヨリ帰ラル。上品ナ老人ダト益子ツクヘニ感心スル。

五月二日（水）

ヒトラー戦死

市役所ヨリ道路占有ニツキ実測ニ来ル。自分十八坪、佐藤氏十坪、計二十八坪ト査定。

山田ダイ様、常ヨリハ朝早ク来ル。オンコ一束縛用竹棹ヲ渡シ、ソレカラオンコヲ植付ケル。夕方、自分ガ電車カラ降ルト、自宅ノ新植オンコガ目ニ付キ喜バシイ。澄子モ全様ノコトヲ話シテキタ。水曜会デハ、高倉君ノ蒙古視察談ガアル。ヒトラー戦死ノラジオヲ耳ニシタ。生垣ガ出来テシマリガ付キ、家ラシイ気分ニ打タレル。

五月三日（木）

蕎麦粉

ヒトラーハ、総統官邸ノ玄関先デ、ソ連ノ丸ニ当ツテ戦死シタト。例ノ東二丁目ノ古物店デ植木鋏ヲ求メタ。橋本製粉所デニ番粉ノ蕎麦粉四貫目受取り、安心シタ。嬉シイコト甚シ。色黒（実ハ青味ヲ帯ブ）ク、且ツニホヒガスルトテ、例ノ若者ガ率直ナ話ヲスル。夕刻、ソレヲ以テ団子ヲ作ツタガ、別ニニホヒガアルデナシ、味モ宜シイ。今日求メタ植木鋏デ宅前^{なな}ノ七カマドノ枯枝ヲ切ッテ見タガ、氣持ヨク切レタ。早朝、西ニ一丁目余ノ道路脇カラ、落葉ヲ隣保車分一台集メテ来テ畠ニフリマイタ。独逸ゲッベルス宣伝相自殺ノ旨、放（決）送。

五月四日（金）

五月五日（土）

五月六日（日）

伏見稻荷境内ニ午后散歩。エンゴサク採集。芳香。帰宅シテ一輪差シニ差シ茶ノ間ニ飾ル。

本日、自分ノ留守ニ、函館ノ本庄氏人令息（恵迪寮在舎）来訪。午後、内閣総合計画局技師米坂君来訪。父親ヲ郷里寿都ニ疎開ノタメ同道シテ来タト。未ダ本人ハ結婚前トノコト。午前中、刃ニ出掛ケ、ニンジン三貫目ト味噌醤油ヲ求メタ。味噌醤油ハ全店カラハ全ク始メテダ。

五月七日（月）

午後、米坂君教室ニ来訪。暫ラク話ヲスル。同君ノ話ニヨレバ、現鈴木内閣ハ岡田、

平沼両前首相ノ後押シニヨッテ誕生シタモノダト。此等両氏ハ何レモ、国内事件ノタメ襲撃サレ負傷シタ人バカリダ。ソレニ鈴木首相ノ二二六事件当時ノコトヲ思ヘバ、三人共渦中ノ人デアル。今日、新增産畑ノ手配シテヤル筈デアッタガ雨天ノタメ中止。

五月八日 (火)

朝早く電車デ月寒ニ出掛ケル。伊藤精肉店デ豚肉二百目 (十匆おまけ) 求メタ。百目四円デ八円支払ツタ。実ハ桜肉ヲト思ツテキタラ、予想外デアッタ。午后、第二農場境ノ新增産畠ニ一同出掛ケテ牧草ヲ起ス。渡辺、佐藤、高倉、荒又、南、大爺、島田、金井、松見、穴田、池田、森高、諸氏ト自分出ル。米田氏ハ留守番ヲシテキタ。夕食ニ豚汁ト豚肉ノフライガ出ル。美味甚シ。百匆ノ肉ヲ用ヒタトノコトダガ、三人デタラフク食ベラレル所カラ見レバ百目四円ハ安イモノダ。

五月九日 (水)

散髪

水曜会及経済クラブ

五月十日 (木)

- 発信 ○本庄登志彦氏 (ハ)
○成田収久衛氏 (ハ)
○山田勝美氏 (ハ)
○高山保彦 (ハ)

五月十一日 (金)

昼過、登校ノ途中、下野写真館ニ立寄り、主人及夫人ガ出テ来ラレタノデ、澄子ノ腰掛姿ノ写真ノ焼増五枚注文シタトコロ、主人ガ快諾サレ愉快デアッタ。朝、突然、附近ノ望楼カラサイレンガ鳴リ響キ警戒警報ダ。ソレハB29一機ガ秋田地区ニ侵入シ北進中ノタメダ。間モナク第一種警戒警報解除トナツタ。

五月十二日 (土)

発信 ○池田善長氏 (ハ)

朝、東隆 (道農業会専務理事) 氏ヨリ電話アリ。池田君ノ採用内定ノ由、コノ十四、五日頃東京デ安孫子¹⁶⁴⁾ 会長ト池田君ト会フ予定ノ由、自分モ之レデー安心。

五月十三日 (日)

本庄登志彦君ノ来訪ヲ、終日待ち受ケテキタガ遂ニ見エナカッタ。雨模様デ冷寒ナタメト、且ツハ何セ三度目ノタメトデアラウカト推量。

朝、駒沢君ノ留守宅ヲ訪ネ、例之画帖 (菊水帖) ヲ母堂ニ手渡ス。

五月十四日 (月)

発信 ○本庄彦蔵氏

午後カラ経済旧増産畑ノ耕作。主トシテ南瓜床ノ準備ト播種。ソレガ終ンデ、三時半カラ慰勞ノタメ食堂デ牛乳ガ出ル (五升、農場カラ求)。自分ハ二合位飲ンダ。味噌一貫目、吉田店ヨリ求ム。大学園芸教室カラ苹果 (四十九号) 八疋 (単価三十銭) 配給ニナル。浜チャン来訪。自分ノタメニ、正義君ノ使ヒ余シノ巻紙4本ヲ恵ンデ呉レテ有難カッタ。

五月十五日 (火)

三吉神社祭、久振りニ晴天

オートミール

大学、奉置所脇ノ桜花満開

朝、歩イテ故三国正義君ノ宅ヲ訪ネ、昨日、大学カラ配ラレタ「リンゴ」（四十九号）ヲ浜子ニ与ヘル。三十五日ノ命日トイフノデ、^[兄]霊前ニ供ヘル様ニ益子ノ考ヘツキデア
ル。自分ハ霊前ニ、先日不幸ノ際書イタ短冊ヲ捧ゲタ。高倉君ノ学論ヲ今日デ四〇二
頁迄読ンダ。駒沢君ノ母上、蟹一尾持参。今夕、天ぷらヲ上ゲル。美味甚シ。三人共
十分ニ食ベル。親戚カラ駒沢宅デ貰ッタトノコト。新鮮デ肉ガポロへシテキタ。村
越木工製材所（附近）ニ立寄り、雑把ノ屑ノ分譲方ニ尋ネタトコロ、既ニ分ケルノニ
モ足ラヌ位ダトノコト。併シ、強イテ順番ニ加ヘテ呉レトノ依頼ニ少シ同意シタ様子
（妻君）。朝、橋本製粉所ノ前ノ路上デ若主人ニ会ヒ、来月分ノソバ粉ヲ頼ンデ置イタ。
五月十六日（水）

四時過ギ頃デアッタカ、林学ノ中島教授来室。同教室ノバックナムバー等貴重図書疎
開ノタメ、経済ノ学生研究室（東側、最近迄農実ニ貸与シテキタ部屋）ヲ一時貸シテ
貰ヒタイト。自分ハソレニ同情ハスルガ、教室ノ一致的賛成ヲ得ルノハ中々難事ト思
フガ、相談シテ置カウト答ヘテ置イタ。水曜会デハ、陸軍報道班員某氏（「続クモノ
ヲ信ズ」映画ノ作者）ノ話（北千島）ガアツタ。初メ発音が低クテ、中々聞き取レナ
カッタ。永田¹⁶⁵拓銀頭取ヨリ、今回ノ北海貯蓄トノ統合ノ経過ヲ説明。将来ノ支援
ヲ希望。次ギニ、小竹氏カラモー場ノ挨拶アリ。同氏ハ平監査役トナッタトノコト。
同氏、水曜会ノ席上、久シ振りニ自分ノ席ノ前ニ座ッテ、北海貯蓄生活23年、拓銀ヲ
モ入レ前後38年ノ銀行生活ノコトナド話サル。

五月十七日（木）

札鉄貨物引取所ニ出掛ケル

一時半ヨリ、法経会ニ於テ高倉君ヨリ蒙古旅行談アリ。三時半過ニ了ッテカラ色々疑
問出ヅ。ソレカラ、昨日ノ林学教室ノコトヲ切り出シタガ、中々激論ガ出タ。最初ニ
伊藤学部長室ヲ訪ネテ、コノ話ヲナシ、次ギニ広吉教授ニモ電話カケタ。疎開ノ図書
丈ケニシテ、人ノ附イテ来ルノハ止メタラドウダト尋ネタラ、後デ家ニ電話カケ様ト
ノコトデアツタ。

山田喜三郎様ニ依頼中ノ釘持参。百日十二円（他家ニハ十五円）デ二十一円値ヒ求メ
タ由。穴田君カラ木炭入手如何尋ネラレタ。

五月十八日（金）

渋谷ノ貫一¹⁶⁶君カラ益子ニ来信。予テ心配中ノ三十円送金受取ノコトガ書イテ
アツタ由。亡キ母上ノ一周忌ニ山田方ト相談。同額ヲ送ッタモノ。初メテ安心。

午前、自分ノ留守中ニ穴田君発送（北広島発）ノ木炭一俵、札幌駅ヨリ配達サル。勤
労学徒ガ運ンデ来タソウナ。之デヤット安心。保管料（五日分一円）、配達料三十銭、
計一円三十銭、益子支払フ。一時カラ食堂ノ集リヲ開キ、経済ノ学生研究室借用依頼
ノ件ニツキ昨日ノ続キヲ相談。土屋君ハ反対ノ急先鋒。自分ハ断然反対ダ、自分ノ名
ヲ出シテモヨイト迄極論。小林、高倉、上原諸君モソノ方。渡辺、松田両君、殊ニ前
者ハ貸ス方ニ賛成。佐藤君ハ終始無言。荒又君ハ数日来病欠。又、数日前カラ増田女
モ欠勤。何レダカ肋膜ニナリソウトノコト。伊藤学部長ニ部屋ノ経過ヲ報告シタラ、
ソノ模様デハモウ駄目ダラウカラ止メヨトイハル。部屋ニ帰ッタラ、卓上ニ第二農場

金木氏カラ送り来ッた牛肉ガ載ッテキタ。留守中、静子ガ来リ、山羊乳（二合余）ヤ焼竹輪ヲ置イテキッタ。山羊乳ハ自分ニ取り恐ラク初物ト思ハル。

五月十九日（土）

午前十時カラ物価協力会議ガ開カレルノデ、二時間目ノ授業ハ正常ヨリモ早く始メテ、講義ヲ早目ニ打切り、会場ニ出掛ケタ。十一時頃着。開会中デ黒河内経済第二部長ガ議長席ニ着イテ議事進行中デアッタ。間モナク会議終リ、ソレヨリ別室デ懇談ニ移リ、折詰ノ昼食ガ出ル。十二時頃迄ニ終ッた。帰宅后、若林¹⁶⁷ノ叔母様来訪。間モナク益子ハ配給買カラ帰ル。叔母様ハ急ニ老ケタ様ダガ、今迄ニナク落着イテ且ツ柔和ニ見受ケラレタ。卵（十六ヶ）、アスパラ缶詰（二ヶ）恵マル。

五月二十日（日）

朝早く、本庄登志彦君ヘノ色紙ヲ書直シタ。以前ニ書イタハ「国家之干城」デアッタノヲ、今度ハ「一億皆兵」ト書イタ絹色紙ヲ二枚使ッタ上、ドウニカ物ニシタ。

五月二十一日（月）

午後一時カラ、例ノ教室貸与ノ問題デ食堂ノ集リヲ開ク。上原、小林、小林、土屋、高倉諸君出席。結局、前回ヨリハ一同ノ空気軟化。アノ旧演習室ヲソノマ、ソックリ林学ニ貸スルヨリ外アルマイトノコトニ落着イタ様デアッタ。最后ニ至リ、コノ問題ハ教授会ノ議ニ上セ、ソノ結果、応ズルコトニシタイトノ意見ガ出デ、一同ソレニ同意シタ。午后帰宅シタラ、利尻ノ高松伝太郎氏（はま子ノ父）ガ来テキタ。五十九才トハ見エヌ。十才モ若ク見エル。今日デアッタカト思ヒ出サレルガ、一次（農業会石狩支部農林係ヘ先月三十日附辞令本月十一日ヨリ出勤）ニ初メテ電話カケル。下僚ノ者ノヤル仕事ヲヤッテキルトノコト。困ッタコトダ。

五月二十二日（火）

午前中、林学ニ中島教授ヲ訪ネ、午后ハ伊藤学部長ヲ訪ネ、昨日ノ貸室ノコトヲ話ス。兩人共非常ニ喜ブ。広吉君ハソノナニ反対ガ一度アッタトスレバ引込メタ方ガ良クハナイカナド、今度ハ先方ガ弱気ヲ出シテ来タ。学部長ヘ報告ノ際、経済大教室ノ内部ノ仕切りヤ、助手室員増ノコトナドヲ頼ミ込ム。助手ノコトヲ好意ヲ以テ聴キ込メダ様子ダ。何レ他カラ持ッテ来ルトセバ、前通り工学部ノ方カラデモアラウ。興農公社ノ佐治常務ニ電話シタトコロ、バターハ目下価格改訂最中故、配布ハ四、五日待ッテ呉トノコト。ソノ旨、小使ヲシテ高岡先生ヘモ明日告ゲサセルコトニシタ。

今日デアッタト思フガ、経一¹⁶⁸ノ穴田君ニ色紙（黄金色）ヲ与フ。「行学一致」。

五月二十三日（水）

田端店ニ朝電話。白熱ストーヴノ買入方ト自宅フクロク¹⁶⁹処分ノコト。水曜会ニハ、北部軍管区司令部参謀部小野寺中尉ノ民防空ニ関スル話ガアッタ。同中尉ハ応召デ、嘗テニ高時代佐藤昌彦君トハ同窓デアッタトカ。余リ面白い話デモナカッタ。向フ席ノ真崎君ハ、居睡リヲシテイビキヲカキ、遂ニハ鼻水迄流シテ無邪気振リヲ發揮。丁度一時三十分、未ダ講演半バデ退席。伊藤学部長カラ、前帝銀札幌支店長西川氏病死ノ噂ヲ耳ニシタト一寸報告。余リニ突然ニ驚ク。胃腸ノ病ヒ乎。自分ニ慣レ〜シク話シカケテ呉レタ当時ノコト、信淵¹⁷⁰ノ拙著ノ好評ヲ振り蒔カレタコトナド想出サレル。又、ソノ夫人ハ社交界ニモ活躍シテキラレタラシク、一寸ナマメカシイ様子ヲシテキタコトナドモ目ニ着ク。一時半カラノ経二¹⁷¹ノ農政学講義ニ一

人モ見エヌ。翌日聞イタラ、土壤トカノ試験ノタメデアツクサウナ。自分ハ初メ、ソレハ今日ノ時間ニゴルツノ農政学中ノ一文ノ翻訳ヲシテ来ル様ニ命ジテ居タノニ、オジヘタノカト思ツタ。

五月二十四日（木）

雑把屑（村越製材所）

澄子ノ写真焼増

農政ノ時間ニ、前日ノ既ニ記入シタ様ニ独逸語ヲ当テ、見タガ、出席者野町、深瀬兩人共、カラ駄目ノ様デ自分モガツカリシタ。帰宅シタラ、浜ちゃんガ来テ居タ。愈々来ル二十八日、子供ヤ実父ト共ニ利尻ニ帰ルサウナ。白米、味噌、酢ナド残物ヲ持参。村越製材所カラ雑把屑ガ出タカラト知ラ[セ]ガアツクサウナ。自分ガ出掛ケテ代（五十銭）ヲ払ヒ、ソレカラ益子ガ受取りニ行ク。朝、下野写真館ニ立寄り澄子ノ写真焼増五枚（十円五十銭）受取ル。高橋靴店ニ短靴ヲ持ッテ行ッタガ主人モ居リ、貼紙ノ通り本月ハメ切ツタトノコトデアツタガ、無理ニ頼ンダ。初メ十五円トイヒ出シタガ、踵ヲ省イテ十三円ニシタ。何セ驚イタ高価ダ。今月30日ニ出来上ルト。

五月二十五日（金）

市常会（午後二時）出席。左ニハ東道新社長、右ニ伊沢¹⁷²前市助役ガ着席。国民義勇隊組織ノ件ヲ議ス。議案中ニ文句ノ拙イ点ヲ、伊沢氏ガ自分ニ向ヒ指摘スル。随分細イ男ダト思ツタ。三宅氏、高岡先生御夫妻ナド出席。三宅氏ハ連合公区長トシテダ。南方基地ノB29約二百五十機、二十五日二十二時三十分頃ヨリ約二時間半ニ亘リ、主トシテ帝都ニ焼夷弾投下。ソノタメ畏クモ宮城内表宮殿、其他大宮御所炎上。都内各所ニモ相当ノ被害ヲ生ジタ。

一ヶ月後ノ新聞ニヨリ、法博織田¹⁷³氏戦災死確認。七十八才（当日ノ空襲ノタメ）。

五月二十六日（土）

着信 ○鈴木一氏（（ハ）総理大臣秘書局就任挨拶状）

北十二条辺、大谷家向ノ古物商ニ朝ト昼ト二回行キ、ストーヴノ話ヲスル。福祿ハ今ハ十円乃至十五円位ノ価ヒガ、ツブシノ価ダトイフ。田端ノ話ト完全ニ一致スル。ソナ安価デハ手放ス気ニナレヌ。午後一時半カラ教授会。経済ノ学生研究室ヲ林学ニ貸与ノ件ガ協議事項トシテ提出。一同ノ承認ヲ得。

五月二十七日（日）

高倉君学論本文読了

朝、塩見君ニ電話カケ、フクロク処分ノコト依頼ス

三、四日前、航空中尉松岡¹⁷⁴君、教室来訪。食堂デ話ス。胆ガ座ッテキル様ダ。千歳ニ移動ニナッテ来タト。

札幌市国民義勇隊結成式、護国神社ニ於テ举行（午前十時）。自分ハ来賓トシテ拝殿内ニ着席。高岡先生御夫妻、今総長、東社長、岡田列隊長等臨席。連合公区長、公区長、在郷軍人会員等ハ広場ニ参集。岡田大佐、誓詞ヲ朗読。来賓祝詞ハナカッタ。北海道国民義勇隊本部長（熊谷長官）ノ告辞ハ小谷義雄氏（道食糧営団理事長）代読。式済ム頃、パラヘト雨落チル。高倉君学論（本文）、午后迄ニ読了シ氣ガセイヘスル。今夜、浜子一家及其実父伝太郎氏等四人来宿ス。伝太郎氏ハ一睡モセズニ起キテ居リ、夜遅ク切符買ヒニ駅ニ出掛ケ、翌朝帰宅。

五月二十八日 (月)

午後、早目ニ自分ハ牛乳ヲ携ヘテ帰宅。浜子ノ子供等ニ飲マシメン為メダ。みいちゃんハ甘ソウニ飲ンダガ、妹ノよう子ちゃんハ腹工合ノタメ飲マセナカッタ。夕方四時前ニ彼等一同駅ニ出掛ケル。益子モ付イテ駅迄見送ル。澄子ハ学校カラ直接駅ニ出ルコトニシタ。発車迄ハ居ズニ、益子、澄子兩人共帰宅スル。浜子一行出発スル後姿ヲ、ソクヘミト停留場近クマデ少クナリ行クノヲ、自分ハ玄関前カラ目送シ、可哀想ナ感ジニ咽ンダ。

五月二十九日 (火)

五月三十日 (水)

朝、田端店ニ電話シ、白熱ストーヴ入手ノコトヲ再度確メタ
水曜会ノ席上、西本放送局長ノ話ダトテ、大野君ガ自分ノ座席ノ前ニ乗ッテ告ゲルニハ、白浜¹⁷⁵⁾教授ガ山王ホテルデ爆死ノ旨、東京滞在中ノ放送局員カラ、今、放送局ニ電話ガアッタトノコトニ吃驚。一時半迄ニ大学ニ行キ、学部事務所ヲ覗イタラ伊藤学部長ガ居ラレ、既ニコノコトヲ放送局カラ聞込ンダ所ダトノコト。ソレカラ自室ニ入り上原君ニ電話デ悔ミヲ述ベル。今日ハ何事モ三度ノ日デアル。経済二年目(内実ハ二年、表面上ハ一同昨年十月入学)徳中尚之君ト、拓銀調査部次長田代匡之君ノ不幸ヲモ耳ニシタノダ。今夜七時カラ田代匡之氏ノ御通夜ニ出掛ケル。ソノ席上、始メテ拓銀人事部長阿部氏ト挨拶ヲ取り交ハス。佐藤桂氏ノ令嗣ガ司式。徳中氏ノ住ヒハ御殿造リ。後藤新平¹⁷⁶⁾氏ノ横額ガカカッテキル。又、田代君ノ宅ノ一室ニハ琢堂¹⁷⁷⁾ノ「徳不孤」ノ額ガアル。誰カ字ヲ賞メテ、中々程良ク出来テキルト思ツタ。

五月三十一日 (木)

徳中、田代両氏葬儀

朝九時、故徳中尚之君ノ宅ニ着ク。受付近クデ父上ト挨拶。又、在室蘭ノ令弟(裕満)トイフ人トモ挨拶。葬儀委員長ハ齊藤熊雄君ダ。全君ニ聞ケバ、一人娘ノ令嬢ニハ既ニ二子ヲ掌ゲタト。又、ソノ席上デ、岩見沢ノ齊藤氏ノいとこトイフ齊藤トイフ人ニ、先方カラ言葉ヲカケラル。保彦君ノコトモ能ク知ッテキル。ソウイヘバ、保二君トモ、ドコカー一寸顔ニ似タ所ガアル。西創成¹⁷⁸⁾ニ勤メテイルトノコト。農学部長ノ弔詞ハ土屋君(渡辺君モ土屋君ヨリ遅レテ来着シタガ)、学生総代ノ弔詞ハ金田君ガ朗読。自分ハ経済学科主任トシテ朗読。和田教授ヤ平塚¹⁷⁹⁾氏ノ顔モ見エテ居タ。水曜会モ焼香ノ際、呼び出サレタモノ、出テ来ル者ナク、一寸変ンデアッタ。午後二時カラハ故田代匡之君ノ告别式ガアル。自分ハ早目ニ、南六西十四ノ宅ニ行ク。永田拓銀頭取、札幌同窓会長高岡先生、公区長小西助三郎氏ノ次デアッタカ、教室主任トシテノ弔詞ヲ自分ガ読ム。声ガ途切レルナド感ニ咽ンダ、オエツノ声ガ方々ニ聞エタ。高岡先生ノ弔詞朗読ハ、随分務メラレタモノト感心。又、頭取以下重役連総出トハ又亦感心シ、自分ガ式後、座り起タウトシタラ、拓銀ノ大橋君ハ自分ニ謝辞ヲ述ベテキラレタ。親友代表トシテ阿部人事部長ガ玉串ヲ奉奠。佐藤桂氏司式。

六月一日 (金)

橋本製粉所ニ昼頃立寄ル

バター一封度七円十四銭トナル。今迄ハ五円七十銭(何レモ公社)。
興農公社ノ佐治常務ニ電話シタラ、売価改訂ニテ、バターハ丁度今日カラ発売シ出シ

タトノコト。昼過、白浜君ノ宅ヲ訪ネ安子令夫人ニ悔ミヲ述ブ。軍人ガ手伝ヒデアラウ、見エテキル。ソーセージ一本宛、教授ニ農場ヨリ配給。夕食ニ出シタガ、本物丈ケニ中々美味。今夕、三年ノ上村君来訪。今度、道庁ノ北方農業課ニ手伝ニ出掛ケルコトノナツトテ了解ヲ求メニ来タ。

六月二日（土）

公社ヨリバター取寄ス

晩、琴似ノ戸部氏夫人カラ益子ニ電話アリ。明朝、澄子ノコトデ先方ノ母ト二人デ来宅シタシトノコト。

森高君、午前中、公社ニ行キバター五封度受ケ来ル。自分ノ茶飲茶碗紛失シタトノコト。昨日ハ金井女ガ自分ノ牛乳入ビーカーヲコワシタト、今日ハ森田女ガ茶碗ノワビニ来ル。瀬戸物払底ノ今日、盗マレタモノデアラウ。一時半カラ、故白浜君ノ葬儀ニ関シ主任会、突然開カル。高倉君ノ学論ノ審査要旨ノ起草ニ取りカカル。白浜君葬儀ニ関シ、学部長ガ委員長、高橋教授ガ総務委員長（?）。外ニ化学及水産教授ニハ式場、接待、庶務、会計等ノ部署ニ定メルコトニシタ。今朝、遺骨出迎ノタメ水産ノ助手ト学生ト出発シタト。遺骨到着ノ際、出迎スルヤ否ヤノ話ニ対シ、広吉教授ハソノ必要ナシトイヒ、小華和¹⁸⁰君ハ知ラセ丈ケシテ出迎ハ各自ノ随意ニシタラトノ意見ヲ出シタ。広吉君ハ無駄ナ且ツ無情ナ発言ヲシタモノダ。学部教授トシテ生花一对、学部トシテ花輪一ヶ供スルコトニ決メ、種苗園ニ調製タノムコトニシタ。

六月三日（日）

朝、琴似カラ汽車デ戸部様ノ奥様ガ先方ノ斉藤夫人ヲ伴ヒ来宅ノ筈デアッタガ、都合ニヨリバスニ変更ノ積ノ処、ソノバスガ突然不通ノ結果、二十丁目迄二人デトボへ歩イテ来ラレタトノコト。会ッタ結果、先方ノ澄子ニ対スル感じガ好カッタラシ。ゼリーヲ出シタラ兩人トモ残りナク平ゲラレタト。自分ハ、ソノ来客ノ為メ朝カラ外出。昼ハ久振りニ㊦ノ食堂ニヨリ、松茸入リスープトヤラヲ取り、携帯ノソバ粉ノ団子ヲ取り出シテ食ベタガ、団子ノ不味甚シカッタ。二時カラ開催（公会堂）ノ大日本政治会北海道支部結成式並ニ講演会傍聴。南¹⁸¹総裁、森田特派代儀士（重次郎）ノ熱弁ニ魅セラレタ。南大将ノ元気ナ、朗カナ、響キ渡ル而カモ名文句ニハ感動シタ。

六月四日（月）

午前中、月寒ニ行キ、刃デ長芋ト日本葱ヲ求メル。往キハバス不通ノタメ歩イテ行ク。帰り、修復マデノ時間ヲ月寒小学校附近ノ散歩ニ費シタ。全校玄関先ノ白壁ノアタリ、堂々タルモノ。恐ラク軍司令部所在地ノ関係カラデアラウカ。

六月五日（火）

朝、松竹座向ノ北川菓子店ニ行キ、主人ニ斉藤禎君ノコトヲ問ヒ質シタラ、非常ニ善イ報告ヲ得タ。

六月六日（水）

発信 ○高柳貫一氏（(ハ) 二通、戦災見舞）

○渡部以智四郎¹⁸²氏（(ハ) 悔状）

朝七時頃、益子ハ琴似ノ戸部様ノ奥様ニ電話シ、斉藤氏ヘヨロシク取運ビ方ヲ依頼シタ。

六月八日（金）

午前中、田端店ヨリ主人ガ使用人ヲ伴ヒ、リヤカーデ白熱ストーブヲ運ビ来ル。未ダ〜ト思ッテキタノニ安心シタ。併シ百二十円ノ金ヲ用意セネバナラヌノハ一寸頭痛。午后、学校ヨリノ帰途、全店ニ立寄り、右百二十円ト外ニドアノレール代五十銭支払。

六月十日 (日)

故白浜教授ノ通夜ト葬儀 (以上仏事) ガ、晩六時カラ自宅ニ営マル。自分モ参列。葬儀トアレバ弔詞ノ朗読アルモノト思ッテキタラ、ソレハ明日廻シトノコト。伊藤葬儀委員長 (部長)、色々世話シテキタ。戦死ノ取扱ニナツタトノコトデ、陸軍参謀総長、教育総監ヤ当地部隊長ノ供物 (干菓子) ガ供ヘテアッタ。農学部教授一同トシテ大キナ生花一ヶ、農学部職員一同トシテ生花一對モ供ヘラレテキタ。

六月十一日 (月)

午後二時カラ、白浜君ノ慰霊祭兼告別式ガ営マレタ。自分ハ慰霊祭ニ参列。僧侶抜キダ。新善光寺デハ昼ハ工場ニ出動ノタメト。昨晚、通夜ノ席上、方丈 (大政翼賛会市支部常務委員) ノ説教ハ流石、時局張り。今日ノ慰霊祭ノ際、弔詞ガ十以上朗読。夕方、橋本製粉所デソバ粉五貫目求。

六月十三日 (水)

水曜会デハ、林¹⁸³⁾札幌病院長ヨリ、目下ハヤツテキル病氣ノ話ガアル。二時カラ大学デ第二回戦歿者慰霊祭 (五十四柱) ガ営マル。白浜君モ合祀。令嗣 (中学三年、十三才)、玉串ヲ捧グ。併シ、未ダソレヨリ年少ノ少年モアッタ。四時半カラ翼賛会札幌市支部解散式ガ市議事場デ挙行。ソレカラ精養軒デ食事 (洋食)。パンモ、Gホテルノヨリハズット良シ。ソレニ南瓜 (多少乾粉) ヤゼリーモ珍ラシ。ソノ上、牛肉ラシイモノモ出タ。日本酒ニ自分モ大イニ盃ヲ傾ケタ。上酒トノコト。新田君ガ又々三沢市長ニ後添ノ世話ノコトヲ話シカケル。

六月十四日 (木)

十一時頃、一次来宅。道農会石狩支部農林係ニ先月、転任シ来ル。

六月十五日 (金)

戸部様ノ奥様カラ例ノ室蘭ノ齊藤氏 (現在仙台) ノ件、本人東京出張ノ為、返事ガ後レルトノ知ラセ益子ニアリ

札幌神社祭ハ珍ラシク晴天。申シ分ナシ。朝、赤飯。午后、静子来宅。

六月十六日 (土)

高倉君、午后来室。学論ニツキ疑問ノ点ヲ尋ネル。一昨十四日ガ第一回目デアッタ。今日デ大体了ッタ。昼頃、池田善長君来室。共ニ昼食ス。全君ハ今回、道農会ニ転職決定。併シ部署ハ未定トノコト。全君ノ身ノ落付所ニツキ、笠原人事課長ト東常務トノ間ニ未ダ話ガ充分ツイテキナイラシ。

六月十八日 (月)

故閑院宮様国葬

六月十九日 (火)

昼ノ時間ニ、一年目飯田保君ノ出征壮行会ヲ演習室デ開ク。本人ノ感想談中ニ、松田先生ノ部屋ニ入ッタラ、書物ノ臭ヒデムセル程デアツテ懐シカッタナド出テ来ル。中々含蓄深イ話シ振りダ。自分ノ牛乳ヲ同君丈ケニ提供。

六月二十日（水）

沖縄海軍最高指揮官牛島満中将、先頭ニ立ッテ奮戦死
水曜会デ、日本通運札幌支社長美山梅吉氏ノ話ガアツタ。面白クナカッタ。東京アタ
リデ自動車一万円、馬車一千円ノ噂ガアルトノコト。一時半カラ教室主任会議。渡廊
下取外シノコトヲ相談。本館デハーケ所。東京ノ大石氏、警防団ノタメ活動中、戦災
ニ会ヒ、ソレガ元デ数日前病死サレタトノコト。

六月二十一日（木）

今日デアッタ後カラ思フガ、午前中ニ大学院ノ林君ガ病後初メテ登校。自分丈ケニ
会ッテ、色々病中ノ話ナドシテ帰ル。未ダ当分余リ無理シナイデ静養スル様勸メタ。
因ニ荒又君モ持病再発。約一ヶ月モ休ンデキタガ、二、三日前ニ昇校。

六月二十二日（金）

数日前、池田善長君^[来宅か]□□。東亜研究所デハ出勤率ハ二割以内トカ。今日ノ俸給日ニ俸
^[給か]□渡ラズ。自分ノ予算ガ一寸クルッタ。

六月二十三日（土）

一時半カラ教授会。ソレガ済ムデカラ、学論ノコトデ小林君ノ部屋ニ入ッたら、先方
カラ自分ノ室ニヤッテ来タ。論文「農業法研究」ニツキ、例ノ通り色々質問スル。序
言中ニ秩父宮様ノコトヲ引用シタノハ、雲ノ上ノコトヲ申シテ一寸如何ト思フト
注意シたら、ソレナラ論文ヲ撤回シヨウナド、出テ来ル。何時迄モ子供臭ホド短腹ナ
[ノ]ニハ驚ク。又、其外諸点ヲ尋ネテ見ルト、仲々自説ヲ回転シテ降ラヌ。併シ、独
逸語ヤ仏蘭西語（仏語ハ多クハ、アクサンテーク¹⁸⁴ノ所）ノ誤謬点ヲ指摘シタノニハ、
少々マヘツタ形^[4]。コレ一回デ質問ノ個所ハ全部了ツタ。五時カラ社交倶楽部ノ例会ダ
（実ハ、去ル十八日ノ筈ノ所、突然、国葬ノ為延期）。控訴院検事長熊谷誠氏ノ「戦時
下最近ノ思想問題」ト題スルお話。初メハ平凡ナ好々爺ト思ッテキタラ、話ヲ進メ行
ク中ニ熱ヲ帯ビ来リ、且ツ中々雄弁ニナツタ。工場労働デー一番熱心ナノハインテリゲ
ンチャ、次ニ都市出身者、最后ガ農村出身者トノコト。農村出ガ何故ニカク勤労意欲
ニ乏シイノカ、自分ニハ判ラヌ。又、同氏曰ク、大東亜共栄圏ヲイヒ出シタノハ共產
党デ、全党ハ元来、敗戦主義デアルノニ、今回ハ、ソ連ト結ンデ米英打倒スベシトテ、
戦争ヲケシカケテ行ッタトハ、自分ニハ珍ラシク聴イタ。

六月二十四日（日）

朝早く、澄子ハ学部ノ高杉¹⁸⁵ 実験室ノ人達ノ催シニ加ハリ、石狩ニ出掛ケル。自分
ハ朝、中村床屋ニ行キ、ソレカラ月寒¹⁸⁶デ味噌ト酢ヲ求メ帰ル。早朝、風呂水ヲ酌ム。
夕方近クワイタガ、今朝風呂オケノ掃除ガ行届イタタメ、湯ガ頗ル綺麗デ例ノ如キ金
気が出ヌ。夕方、澄子帰宅シタガ、鱒ハ無論ノコト、ザッコー匹モ持ッテ帰ラヌ。但
シ、石狩ノ宿屋デハ鱒鍋ハ出タトノコト。

六月二十五日（月）

午前中、上原君ニ高倉、小林両君ノ学論審査要旨ヲ渡ス。朝、電車デ理学部ウヅマサ
¹⁸⁶教授ニ出会ヒ、柴田¹⁸⁷教授危篤ノタメ、杉野日¹⁸⁸教授方（電話故障ノタメ）ニ連
絡取りニ行ッテ来タトノコト。今日始メテ好天炎暑。初夏ノ気分ニ打タレル。満洲留
学生主催謝恩会（桑園分館）ニ出席。

六月二十六日（火）

警戒警報 (午前二時頃)

二十二日ニ出ルベキ俸給ガ、本日午後、ヤット出タ。コレハ大学一般ダ。判任以下ノ者ノ賞与辞令ヲ渡ス。午後、高倉ノ来室ヲ求メテ、学論ニ付、又モヤ質問ノケ所ヲ訊ス。午前二時頃、警戒警報鳴ル。

六月二十七日 (水)

昼以前カラ警戒警報。次イデ空襲警報ニ移ル。水曜会オヂャン。自分ハ、ソノ頃、自宅ニ居タ。

六月二十八日 (木)

緊急工事出動

午前六時半迄ニ南九条西十六丁目ノ郵便局前ニ緊急工事出動ノ為参集トノ触出ニ応ジ、自分ハ、隣ノ田口老人ヤ魚屋ノ茶様ト三人デ時間前ニ出掛ケタガ、誰モ見エズ、時間が来テモ来ナイノデ、茶様ガ自転車デ塩野谷公区長ノ所ニ駈ケツケテ聞イタ所、ソレハ円山綜合グラウンドノ誤リト知レ、茶氏ハ自転車デ、自分ハ田口氏ト共ニ電車デ円山ニ急グ。終点カラー一寸出ルト向フカラ茶氏ガ出迎ニ来タ。掛リノ人ニ極力頼ンデ、辛ウジテ出動人員中ニ受入レラレタトノコトニ、ヤット安心。現場ニ急イダラ、丁度点検ガ終ツタ許リノ所。仕事ハ兵舎ノ板壁ノ偽装(小枝ヲ釘付ケ、ソノ上ニ笹ヲ結び付ケル)デアッタ。十一時頃カラ十二時半迄昼休ミ。ソノ前ニモ九時頃デアッタカー一寸休ム。三時前ニ仕事ヲ終ヘテ休憩。吾々ノ隊ノ一部ハ、他ニ応援ニ赴ク。四時頃解散。隊長(弁護士デ公区長トカ)ヤ掛リ将校ノ挨拶ガアル。山北ノ外、山南、中部西(?)、円山ノ各公区出動。叢中デ握飯、甘カッタ。大形ノモノ3ヶ。十分過ギル程ノ分量デアッタ。夕食ニハおはぎ。一兩日前、琴似ノ山田方カラ砂糖ヲ貰ツタノデ、甘味ハ中々利イタ。田口様宅ニモ上ゲル。コノ日モ昼少シ過ニ警戒警報。現場ニ聞エテ来ル。厄介ナ奴ダトツクヘミ思ツタ。

コノ日午前九時、円山終点集合ノ上、近ク帰国ノ尹玉文¹⁸⁹⁾君ノタメ、送別会ガ開カレタ筈。後デ聞ケバ、尹君、中々ノ気焰ヲ挙げタト。憲兵ノ監視ノ眼ニ対シ不平ヲ洩シタ由。

六月二十九日 (金)

今日モ昼頃、警戒及空襲警報ニ驚カサレル。

六月三十日 (土)

農政学特講ヲ久振りニヤル

講義最中ニ警戒及空襲警報

北大学徒隊結成式。八時半迄ニ工学部北方広場ニ参集。図書館ノ辺カラ、高岡道夫¹⁹⁰⁾君ト同道、色々四方山ノ話ヲスル。二時間目ノ農史ハ挙式ノタメ奪ハレタ。三、四時間目ハ続ケテ農政学特講ヲヤル。今学期ニ入りテ始メテ特講ヲヤッタ。実ハ、尹君ノ帰国ヲ耳ニシ急ニ思ヒ付イテ、ヤル気ニナッタモノダ。台本ハ東畑教授ノ著「日本農業ノ課題」ト、野間海造君ノ「人口問題ト南進論」ノニツ分。コノ両著ノ内容(資兼勞力ノ限界生産力ヲ主トス)ヲ比較シ、自分トシテ大気焰ヲ挙げ、ソレニ「現時ノ農村問題」ノ一部ヲ読ミ上グ。「対米日支移民問題ノ解剖」ヲ尹、金田両君ニ与ヘタ。コノ講義ヲヤラヌ内ハ氣ガ咎メテ仕方ナカッタガ、終ヘテカラ氣ガサッパリシタ。コノ講義中ニ警戒及空襲警報鳴ル。夕方、西線電車デ杉野目教授ト一緒ニナル。夕方、

上原君宅ニ電話シ高倉、小林両君ノ学論審査要旨通読セルヤ尋ネタガ未ダデ、来週火曜ノ教授会迄ニハ間ニ合ハヌトノ返事ニ自分モ一寸閉口。

〔注〕

- 1) 三国浜。中島家の元女中。利尻島出身。
- 2) 橋本左五郎。名誉教授。畜産学専攻。
- 3) 高岡熊雄。名誉教授・元総長。農政学・殖民学専攻。九郎の恩師。
- 4) 星野勇三。名誉教授。園芸学専攻。
- 5) 明峰正夫。名誉教授。育種学専攻。
- 6) 中島益子。九郎の妻。
- 7) 中島澄子。九郎・益子夫妻の長女。
- 8) 小林巳智次。農学部教授。農業法律学専攻。
- 9) 堀内寿郎。理学部教授。触媒化学専攻。
- 10) 不詳。乳製品か。
- 11) 高山チヤ。中島家の元女中。トモ子、敬子、紀子、洋夫は高山チヤ・立雄の子ども。
- 12) 河西一次。九郎の従弟。北海道農会勤務。厚別在住。
- 13) 笠島彊一。北海道農会勤務。1935年農学部農業経済学科卒業卒業。
- 14) 成田収久衛。帝国繊維株式会社勤務。1940年農学部経済学科卒業。
- 15) 堀越義雄。帝国繊維株式会社勤務。1934年農学部農業経済学科卒業。
- 16) 成田静子。成田収久衛の妻。河西一次の妹。九郎には従妹にあたる。
- 17) 山田勝美。益子の姉山田富子の長男。農学部農芸化学科学生（1942年7月入学）。
- 18) 予科教授。数学担当。
- 19) 高山保雄。九郎の妹高山ハツ子の次男。
- 20) 伊藤誠哉。農学部長・教授。植物病理学専攻。
- 21) 川口栄作。農学部農学実科主任・農学部教授。養蚕学専攻。
- 22) 佐藤義夫。農学部林学実科主任・農学部教授。造林学専攻。
- 23) 手島寅雄。農学部附属農場長・農学部教授。作物学専攻。
- 24) 中島広吉。農学部附属演習林長・農学部教授。森林経理学専攻。
- 25) 荒又操。農学部助教授。産業組合論専攻。
- 26) 山下生化学研究所。札幌農学校農芸科を1909年に卒業した実業家山下太郎の寄附により設置された。
- 27) 田所哲太郎。理学部教授。生物化学専攻。
- 28) 森岡光信。1909年東北帝国大学農科大学農学科卒業。静岡県立沼津農学校長などを務めた。
- 29) 南鉄蔵。農学部助手。農業経済史専攻。
- 30) 大爺栄一。農学部助手。農業経済学専攻。
- 31) 三越デパート札幌店。
- 32) 1910年東北帝国大学農科大学農学科卒業。九郎の同期生。
- 33) 高山ハツ子。九郎の妹。
- 34) 高倉新一郎。農学部助教授。農業経済史専攻。
- 35) 北大の南側にある公園。国の公園整備に先駆けて、1871年に作られた日本最初の都市公園。
- 36) 九郎の妹高山ハツ子の夫。1922年北海道帝国大学農学部畜産学科第一部卒業。樺太庁中央試験場勤務。
- 37) 民俗学者。
- 38) 農学実科の略称。

- 39) 東京文理科大学助教授。日本古代史専攻。
- 40) 現在の札幌ロータリークラブ。戦時期は札幌水曜会として活動していた。
- 41) 渡辺侃。農学部教授。農業経営学専攻。
- 42) 山田富子。益子の姉。
- 43) 上原轍三郎。農学部教授。植民学専攻。
- 44) 農学部助手。畜産学専攻。
- 45) 井口賢三。農学部教授。畜産学専攻。九郎と同期生。
- 46) 1934年農学部農業経済学科卒業。
- 47) 和田禎純。予科教授。国際法専攻。
- 48) 富樫威。農学部農業経済学科学生 (1943年10月入学)。
- 49) 札幌商工会議所会頭。木材商。
- 50) 三沢寛一。札幌市長。
- 51) 成島勇。千葉県選出衆議院議員。
- 52) 松浦周太郎。北海道選出の衆議院議員。
- 53) 帯広獣医畜産専門学校長。元北海道帝国大学教授。
- 54) 理学部化学科卒業。
- 55) 小竹文次郎。北海道貯蓄銀行専務取締役。
- 56) 阿久津国造。工学部教授。応用力学専攻。
- 57) 高島正彦。農学部農業経済学科学生 (1942年4月入学)。
- 58) 牧野常雄。農学部農業経済学科学生 (1942年4月入学)。
- 59) 今裕。北海道帝国大学総長。病理学専攻。
- 60) 半沢洵。名誉教授。農芸化学専攻。
- 61) 青葉萬六。元予科主事。物理担当。
- 62) 小熊捍。低温科学研究所長・触媒研究所長・教授。動物形態学専攻。
- 63) 北方文化研究室。
- 64) 服部品吉。予科長・教授。漢文担当。
- 65) 帝国繊維株式会社。
- 66) 島善鄰。農学部教授。園芸学専攻。
- 67) 富樫長吉。富樫商店社長。
- 68) 株式会社今井商店 (丸井今井デパート)。
- 69) 山田勝伴。益子の姉山田富子の夫。1904年札幌農学校卒業。
- 70) 穴倉盛也。1933年農学部農業経済学科卒業。
- 71) 満州に帰ること。
- 72) 野間海造。東京帝国大学農学部助教授。農業経済学専攻。
- 73) 尾形月三 (月山)。画家。
- 74) 松井香瑤。画家。
- 75) 1934年農学部農業経済学科卒業。
- 76) 中村不折、近藤浩一路、小川芋銭、大谷句佛は画家。巖谷小波は児童文学者。内藤鳴雪、河東碧梧桐は俳人。
- 77) 中国の画家。
- 78) 株式会社藤井商店 (現在の丸藤井株式会社)。
- 79) 三宅康次。名誉教授。農芸化学専攻。
- 80) 児玉作左衛門。医学部長・教授。解剖学専攻。
- 81) 井口鹿象。工学部長・教授。水工学専攻。
- 82) 駒井徳三。元「満洲国」國務院総務長官。1911年東北帝国大学農科大学農学科卒業。
- 83) 茨城県にあった満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所。
- 84) 1915年東北帝国大学農科大学農学科第一部卒業。
- 85) 農学部経済学科の研究会。

- 86) ステープル・ファイバーの略語。人造繊維。
- 87) 理学部教授。数学専攻。
- 88) 松田武雄。農学部教授。農業経済学専攻
- 89) 東畑精一。東京帝国大学農学部教授。農業経済学専攻。
- 90) ルンペンストーブ。石炭ストーブのこと。2台一組で使用し、片方の石炭が燃え尽きると他方を燃やして、暖房を継続させた。
- 91) 小樽経済専門学校教授。1921年農学部農学科第一部卒業。農業経済学専攻。
- 92) 北海道興農公社株式会社常務。1919年北海道帝国大学農科大学農学第一部卒業。
- 93) 1924年農学部農学科卒業。樺太地方気象台勤務。
- 94) 土居通次。室蘭市長。
- 95) 矢島武。元農学部助手。農業経営学専攻。1942年1月に北海道農業研究会がマルクス主義農業理論の啓蒙宣伝を意図するものとされ、矢島らは特高により検挙された。
- 96) 洋風の脚絆。ゲートル。
- 97) 比田井小琴。書家。
- 98) 農業経済学科。
- 99) 松野伝。1922年北海道帝国大学農学部農学科卒業。「満洲国」興農部・開拓総局勤務。
- 100) 伊藤豊次。伊藤組社長。
- 101) 佐藤昌彦。農学部助教授。法律学専攻。
- 102) 医学部教授。産婦人科医学専攻。
- 103) 永井一夫。医学部教授。小児科医学専攻。
- 104) 高山百合子。高山保二・ハツ子夫妻の長女。
- 105) 札幌グランドホテル。
- 106) 立原耕平。札幌グランドホテル支配人。
- 107) 豆粉。春雨のこと。
- 108) 光参（キンコ）。ナマコ的一种。
- 109) 帯広獣医畜産専門学校。
- 110) 宇都宮農林専門学校。
- 111) 北海道庁立女子医学専門学校。
- 112) 江原玄治郎。北海道庁立札幌高等女学校長。
- 113) 高松正信。学生主事・農学部教授。畜産学専攻。
- 114) 高山保彦。九郎の妹ハツ子と高山保二の長男。農学部農学実科生徒。
- 115) 樺太の豊原へ帰ること。
- 116) 大政翼賛会札幌市支部。九郎は常務委員を務めていた。
- 117) 阿部平三郎。大政翼賛会北海道支部事務局長。
- 118) 岩沢誠。大政翼賛会札幌市支部常任委員。北海道翼賛壮年団札幌市団長。
- 119) 佐藤一雄。大政翼賛会札幌市支部常任委員。1923年北海道帝国大学農学部農学科卒業。
- 120) 沢田栄吉。農学部助教授。園芸学専攻。
- 121) 駒沢欣一。農学部助手。農業経済学専攻。
- 122) ガンジー（Guernsey）種の乳用牛から採れた牛乳。
- 123) 村田喜一。農学部助手。畜産学専攻。
- 124) 本虎之助。北海道農業試験場畜産部長。
- 125) 中島家の元女中三国浜の夫正義の父。
- 126) 真崎健夫。医学部教授。薬理学専攻。
- 127) 林善茂。大学院特別研究生。研究テーマは「人口政策上ニ於ケル農業ノ地位ニ関スル事項」。
- 128) 佐々木隆介。大学院特別研究生。研究テーマは「東亜ニ於ケル植民政策研究」。
- 129) 稚内と樺太の大泊を結ぶ連絡船。
- 130) 佐藤昌介のこと。元北海道帝国大学総長。殖民法学専攻。九郎の恩師。佐藤昌彦農学部助教授は昌介の五男。

- 131) 新渡戸稲造。元札幌農学校教授。殖民学専攻。
- 132) 近藤康男。元東京帝国大学農学部教授。農業経済学専攻。1943年、思想弾圧により大学を追われた。
- 133) 元京都帝国大学経済学教授。マルクス主義経済学専攻。
- 134) 西内健一郎。1940年北海道帝国大学農学部農業経済学科卒業。
- 135) 1901年札幌農学校卒業。
- 136) 里正義。農学部教授。畜産学専攻。
- 137) 高橋栄治。農学部教授。農芸化学専攻。
- 138) 北海道庁立札幌第一中学校。
- 139) 安延三樹太。北海道庁立札幌第一中学校長。
- 140) 現在の学校法人酪農学園の前身。
- 141) 中島家の元女中高山チヤの夫。
- 142) 旧農学部農学実科。1945年4月、農芸実科と林学実科を統合して農林専門部を設置。
- 143) 小松一郎。農学実科生徒。
- 144) 高柳栄子。益子の母。
- 145) 宮脇恒。宮脇富帯広獣医専門学校長の弟。
- 146) 函館水産専門学校。
- 147) 越山友之。越山商店社長。後に澄子の義父となる。
- 148) 金田弘夫。農学部農業経済学科学生。
- 149) 横井時敬。東京帝国大学農学部教授、東京農業大学初代学長などを歴任。農業経済学専攻。
- 150) 前掲、佐藤昌介。
- 151) ドイツの農学者Theodor Alexander Ludwig Georg Freinerr von der Goltz。九郎の恩師高岡熊雄は、ドイツ留学中、ゴルツに師事した。
- 152) 北海道新聞社相談役。
- 153) 三田村健太郎。農学部助教授。畜産学専攻。
- 154) 東京高等商業学校教授などを務めた。商業史専攻。南進論者として著名。
- 155) 今井雄七。今井商店社長。
- 156) 東季彦。北海道新聞社社長
- 157) 北海道新聞社取締役。
- 158) 熊谷憲一。北海道庁長官。
- 159) 東隆。北海道農会幹事。
- 160) 1899年札幌農学校卒業。
- 161) 土屋四郎農学部助教授。法律学専攻。
- 162) 入江たか子。映画女優。
- 163) 山田喜三郎。近所の便利屋。山田の爺の意。
- 164) 安孫子孝次。北海道農会会長。
- 165) 永田昌綽。北海道拓殖銀行頭取。
- 166) 高柳貫一。益子の兄。
- 167) 若林つぎ。益子の叔母。
- 168) 農学部農業経済学科1年の意。
- 169) フクロクストーブ。国産貯炭式ストーブ。「フクロク」はメーカー名。
- 170) 佐藤信淵。『農政本論』などの著述で知られる、江戸時代後期の農学者。九郎は1941年に『佐藤信淵の思想』を刊行している。
- 171) 農学部農業経済学科2年の意。
- 172) 伊沢広曹。大政翼賛会札幌市支部常務委員。
- 173) 貴族院議員。元京都帝国大学法学部教授。行政法専攻。
- 174) 松岡洋三。1943年農学部農業経済学科卒業。
- 175) 白浜潔。農学部教授。水産化学専攻。

- 176) 政治家。台湾総督府民政長官、満鉄初代総裁、内相、外相、東京市長などを務めた。
- 177) 佐藤昌介元総長の号。
- 178) 札幌市立西創成小学校。
- 179) 平塚直治。北海道理化学工業株式会社専務。1895年札幌農学校卒業。
- 180) 小華和忠士。農学部教授。獣医学専攻。
- 181) 南次郎。貴族院議員。陸軍大将、陸相、朝鮮総督などを務めた。
- 182) 1927年農学部農業経済学科卒業。
- 183) 林敏雄。札幌病院長。
- 184) アクセント。
- 185) 高杉直幹。理学部助教授。生物化学専攻。澄子は高杉実験室で働いていた。
- 186) 太秦康光。理学部教授。分析化学専攻。
- 187) 柴田善一。理学部教授。無機化学専攻
- 188) 杉野目晴貞。理学部教授。有機化学専攻。
- 189) 農学部農業経済学科学生。中国（満州）からの留学生。
- 190) 高岡道夫。農学部助教授。水産化学専攻。高岡熊雄元総長の長男。

中島九郎略年譜

1886年3月	5日、中島貞吉・ワカの長男として、佐賀県神埼郡神埼町に生まれる
1890年	北海道札幌郡江別町字野幌に移住
1892年4月	江別村私立江西尋常高等小学校入学
1899年3月	私立江西尋常高等小学校高等科卒業
1899年4月	北海道庁立札幌中学校入学
1904年3月	庁立札幌中学校卒業
1904年9月	札幌農学校予修科に入学
1906年7月	予修科修了、札幌農学校本科入学
1907年7月	東北帝国大学農科大学への改組に伴い、農学科第一年級に編入
1910年7月	東北帝国大学農科大学農学科卒業、卒業論文は「日本米価論」
1910年8月	東北帝国大学農科大学助手
1912年8月	東北帝国大学農科大学助教授、図書館兼務 (1919年4月まで)
1915年10月	経済学財政学講座分担
1919年4月	北海道帝国大学農科大学農学第二講座担任 (1919年12月まで)
1919年12月	農業経済学研究のため、米、英、仏へ留学 (1922年3月まで)
1922年9月	「米国土地制度の進歩」(英文)にて農学博士の学位授与
1922年11月	北海道帝国大学農学部教授 (農学第二講座担当)
1923年5月	農学部附属第七、第八農場主任 (1935年10月まで)
1924年11月	『対米日支移民問題の解剖』(巖松堂書店)
1925年4月	農学部附属第四農場主任 (1928年4月まで)
1926年3月	『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』を執筆、刊行
1932年9月	農業経済学講堂主任 (1934年1月まで)
1934年1月	文部省の命により、ヨーロッパ各国へ出張 (1935年1月まで)
1935年4月	農学部農政学講座分担 (1936年4月まで)、農業経済学講堂主任
1936年4月	農学部農政学講座担任、農学第二講座分担
1935年8月	「満洲国」出張
1940年11月	大政翼賛会札幌市支部常会委員囑託
1941年	『佐藤信淵の思想』(北海出版社)刊行
1946年	北海道帝国大学評議員
1947年7月	学術研究会議会員
1948年3月	北海道大学を依願退官
1948年4月	札幌文科専門学院教授
1950年4月	札幌短期大学教授
1950年7月	北海道大学名誉教授
1956年9月	札幌短期大学退職、いずみ幼稚園園長、『佐藤昌介』(川崎書店新社)刊行
1959年5月	13日、死去

【解題】

1. 中島九郎関係資料の寄贈について

昨秋以来、中島九郎のご息女の越山澄子さん宅に、山本美穂子（大学文書館専門職員）が何度かお伺いし、中島九郎関係資料の寄贈・提供を受け、中島に関する貴重なお話をうかがった。ご寄贈いただいた主な資料は次のようなものである（総計231点）。

・ 書簡	43点
・ 辞令、証書等の書類	140点
・ 学生時代のノート、スケッチ	2点
・ 中島九郎氏直筆原稿「日米問題ノ真相」	1点
・ 写真アルバム	2点
・ S Pレコード（1939年5月、佐藤昌介演説）	1点
・ 農学部附属第三農場成墾二十五周年記念品（煙草入れ）	1点
・ 大礼服一式	1点

寄贈・提供いただいた中島九郎関係資料については、今後、整理を進め、大学文書館において大切に所蔵し、歴史的資料として利用に供することを予定している。

2. 中島九郎日記について

越山澄子さんからご提供いただいた中島九郎関係資料の中から、中島が1945年に記した日記をお借りして、『北海道大学大学文書館年報』上で2回に分けて翻刻を行なう。第2号では1945年1月から6月までの日記を掲載する（7月以降は次号に掲載予定）。日記原本は、越山さんが長く大切に保存されてきたものである。日記の記載から、中島は1945年以前から日記をつけていたようであるが、現在のところ、存在が確認されているのは1945年の日記1点のみである。日記原本は、黄色いビニール製表紙に「備忘日誌」と記された市販の日記帳である。書式は、上段が日付欄、下段が縦野日記欄となっている。中島は、必ずしも当日に日記をつけていたのではなく、欄外や日付欄にその日の主な出来事を簡条書きし、後日、詳細に内容を書くといった方法もとっていたようである。

日記の翻刻にあたり、越山さんが作成した日記の翻刻ノートを底本として、大学文書館の山本が補筆し、井上が注記などの加筆を行なった。

3. 中島九郎について



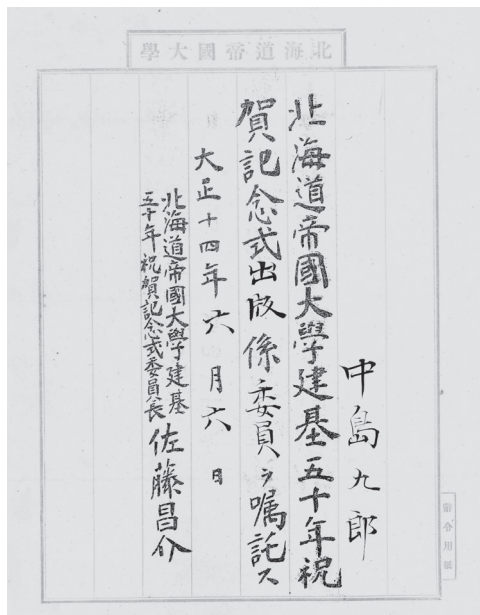
中島九郎旧蔵「恩賜の銀時計」
(越山澄子氏提供)

中島九郎は、1904年に札幌農学校予修科に入学、06年に本科に進学し、翌07年には農学校の改組に伴って東北帝国大学農科大学農学科1年級に編入した。農業経済学を専攻した中島は、佐藤昌介学長や高岡熊雄教授の農政学・殖民学・農業史といった講義や演習を受けている。日記の記載にも両恩師への敬意の深さが窺われる。1910年に「日本米価論」を卒業論文として農科大学を卒業するが、このとき、軍学校・帝国大学等の成績優秀な卒業生に対して天皇が贈る「恩賜の銀時計」を受けている（北大では1908～1917年に24名が銀時計を受けた）。

中島は卒業後、助手として大学に残り、助教授となった。1922年9月には、「米国土地制度の進歩」で農学博士号を授与された。これは学位令（1920年勅令200号）に基づいて、北海道大学が授与した最初の学位である。同年、中島は北海道帝国大学農

学部教授となり、1948年に依願退職するまで農業経済学科で農政学を担当した。この間、文部省から欧米への留学を命ぜられ、また農学部附属農場の主任などを務めている。1932年からは留学期間を除き、佐藤昌介・高岡熊雄・森本厚吉と受け継がれた農業経済学科（農業経済学講堂）の主任も務めた。

もう一点、ほとんど語られることのない中島の業績として、『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』（以下、『沿革史』と略）の執筆・刊行がある。1876年に札幌農学校が開校してから50周年にあたる1926年の前年から、中島は北海道帝国大学創基五十年祝賀記念式出版係委員を務め、『沿革史』の執筆を担当した。300ページを超える分量の『沿革史』は、公文書を基に記述された最初の北海道大学史の著述である。これらの公文書群は、『沿革史』執筆の基本資料として利用さ



出版係委員の辞令
(大学文書館所蔵)

れたのを契機に、附属図書館において整理が行なわれ、50周年記念事業で展示されることになった。その後、北海道大学が80周年、100周年、125周年に大学沿革史を編纂する際にも主要資料となり、現在は附属図書館北方資料室において「札幌農学校簿書」約1,000点として所蔵され、多くの閲覧者の利用に供されている。『沿革史』執筆がきっかけとなり公文書群の整理・保存が進むことになったのは、中島が助教授時代に附属図書館の仕事を兼務し、公文書群を実際に整理した柴田定吉（司書官）とも気脈を通じていたためだと推測できる。こうした意味で、中島は、北海道大学の大学アーカイヴズの歴史の1ページ目に明記されるべき人物でもある。

4. 1945年の中島九郎と日記

日記を記した1945年当時、中島は妻益子、長女澄子と3人で、札幌市の幌西地区に住んでいた。澄子は既に北海道庁立札幌高等女学校専攻科を卒業し、北海道帝国大学理学部生化学科の高杉直幹助教授の研究室で実験補助などの仕事に従事していた。澄子さんによると九郎は近寄りがたい雰囲気のある父親であったとのことであるが、日記の記述からはたいへんな家庭人であったことが窺える。また、中島家には、かつて女中をしていた高山チヤ、三国浜の二人が頻繁に訪れ、大学の教え子も代わる代わる来訪するなど、中島は非常に面倒見の良い人物であったようである。一方、中島は職場の大学では、農学部農業経済学系主任の重責を務めていた。



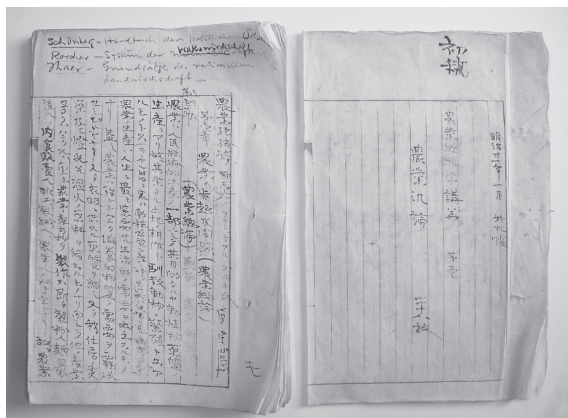
中島九郎一家
中島益子、中島九郎、中島澄子
(1936年12月撮影、越山澄子氏提供)

日記に記された飾らない文章を通読すると、中島の朴直な人柄を窺い知ることができる。日記には、全体に戦時色が濃く表われており、戦況に関する情報や政局ニュースをこまめに記録している。戦況に一喜一憂している様子や、食糧の確保に奔走する姿を毎日のように記し、勤労働員に駆り出された際の記事もある。

大学の中では、キャンパス内の空き地を「増産畑」として耕して食料生産を行ない、出征する学生に手向けの色紙を贈って駅から見送っている。学生・教官の戦傷死、学生の勤労働員、在学年限の短縮、大学院特別研究生制度、図書館の疎開、北大学徒隊結成など、戦争をめぐる大学の動きをよく記している。

戦況悪化や物資不足のため、1945年の大学の状況を記録した資料は極めて限られている。大学内のことばかりではなく、札幌における生活の様子や、この年の記録は残っていないとされる水曜会（実業家を中心に札幌の名士が集った会員制の親睦団体。1940年に国際ロータリークラブから脱退したが、戦後復帰して、現在の札幌ロー

タリークラブとなる。)の会合についても記述されている。中島の日記は、大学人が率直に見た1945年を記録した資料として、非常に貴重な資料であると言える。



佐藤昌介「農業経済学」講義原稿 (1888年)
1945年3月21日、佐藤昌彦 (昌介五男) から受贈したと日記に記載がある (越山澄子氏提供)。

〔参考文献〕

- 1) 『東北帝国大学農科大学一覧』、『北海道帝国大学一覧』
- 2) 『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』(北海道帝国大学、1926年3月)
- 3) 『札幌商工人名録』(札幌商工会議所、1941年9月)
- 4) 『昭和十九年 北海道年鑑別冊 北海道樺太人名録』(北海道新聞社、1944年1月)
- 5) 札幌RC30年史編集委員会『三十年の歩み』(札幌ロータリークラブ、1963年6月)
- 6) 『北大百年史』通説、部局史 (1982年7月、1980年3月)

(こしやま すみこ／中島九郎長女)
(やまもと みほこ／北海道大学大学文書館員)
(いのうえ たかあき／北海道大学大学文書館員)